

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県池田町

自治体名：福井県池田町

担当課名：教育委員会事務局

電話番号：0778-44-8006

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	194 km ²
人口	2,183 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	40 人
部活動数	3 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の運動部活動は、軟式野球部、ソフトテニス部の2つが活動している。

少子化に伴い、軟式野球部は他の中学校と合同チームで中体連の大会に出場している。令和7年度以降、部員数の増える見込みはないことから、新入部員の募集を停止し令和8年度をもって終了を予定している。

ソフトテニス部は、今のところ部員がおり活動ができていく状況である。また、今年度より休日の活動は地域移行に向けた試行期間として、スポーツクラブの活動として実施している。

しかし、今後の児童・生徒数を見ると団体競

技の存続は難しいものと考えられる。

転換期を迎えている今、長年にわたって活動してきた学校部活動は、学校教育の一環として運営してきたが、今後は地域移行に向けた取組みを進めていくところである。

課題としては、生徒のニーズに合わせた活動を考える場合、指導者の確保が難しい問題がある。また、練習の成果を試す場（連盟主催の大会）への参加方法や大会に参加する際の移動方法、引率については、生徒の安全な参加の方法について、保護者の理解を得ながら進めていくことが必要になってくる。

池田町の児童生徒数の推移

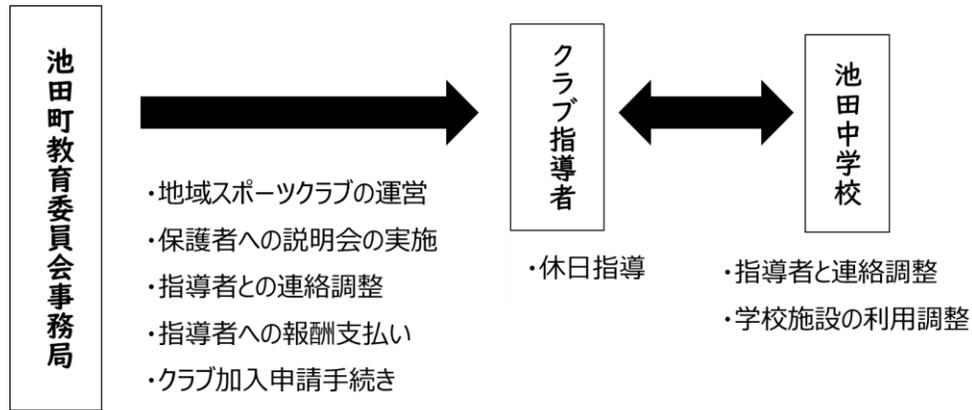
年度	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
池田小学校	88	83	78	85	91	84	83	69	77	67	70	69
池田中学校	73	66	61	52	40	36	38	47	40	47	41	40
合計	161	149	139	137	131	120	121	116	117	114	111	109
増減	▲3	▲12	▲10	▲2	▲6	▲11	1	▲5	1	▲3	▲3	▲2

(単位:人)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域スポーツクラブの運営
- ・指導者の確保
- ・活動場所となる各施設の管理

◎首長部局

- ・総務財政課・・・運営費、活動費の予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	保護者説明会 休日の活動開始
令和6年11月	指導者との意見交換会
令和6年12月	部活動地域移行に向けた検討
令和7年3月	休日の活動終了 次年度募集チラシの作成・配布

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（ソフトテニス部）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	5 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
池田スポーツクラブ	行政	ソフトテニス	月4回	午前8時～11時30分	3年：6人 2年：7人 1年：4人	令和6年4月～令和7年3月	池田中学校施設	5 人	1 人 (内、兼務1人)	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 他校との交流を兼ねた練習試合の実施

主な取組例

●池田スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	池田スポーツクラブ
期間と日数	4月～2月 月4回程度
指導者の主な属性	池田スポーツクラブ指導者
活動場所	池田中学校体育館、町民庭球場
主な移動手段	自転車、保護所送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、指導者との連携を行う

●主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導、健康観察、学校、保護者との連絡・調整を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・教育委員会が運営主体となり、ソフトテニス部の休日の活動を地域スポーツクラブとし、主となる指導者を1名、必要に応じ補助員1名配置し実施する。
- ・中学校のソフトテニス部顧問3名については、県に兼職兼業届けを提出し、地域の指導者として指導に当たる。

登録者属性	種目	資格有無
職業 ・学校教員 4名 ・会社員 1名	・ソフトテニス	・教員免許

取組の成果

- ・指導者1名については、以前、中学校教員として指導経験があり、令和5年度は外部指導者として携わっていたため、指導に一貫性があり、組織的かつ生徒の特性に合わせた指導を行うことに繋げることができた。
- ・平日の部活動の取り組み内容等を、休日の指導者と情報供給を図ることで、無駄のない充実した指導を行うことができた。
- ・指導者とは随時連絡を取り合い、活動中での問題点についてその都度話し合える体制を整えている。また、休日の活動中で怪我等の事故があった場合も、即時連絡が取れる体制を整備している。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本町の中学校は1校で、全校生徒数も少ないことから、部活動の選択肢も限られている状況である。その様な中、令和6年度より、地域移行に向けた実証事業として、ソフトテニス部において、休日のみ総合型地域スポーツクラブ「池田スポーツクラブ」の活動として、通常練習や練習試合等を行い、部活動とは変わらない活動が実施できている。

地域移行に取り組む中で、指導者不足が課題となるが、当町では池田スポーツクラブのソフトテニス教室を実施している指導者に、休日の活動も指導を依頼することができている。また、この指導者は教員であり、過去に中学校のソフトテニス部顧問の経験がある。令和5年度は外部指導者として携わっていたことから、各生徒の状況は把握しており、指導に一貫性があり、組織的にかつ生徒の特性に合わせた指導を行うことに繋げることができている。

問題点としては、休日の活動を一人の指導者がすべて補うことは困難であるため、今後は指導者を増やす体制を整備していく必要がある。

●成果の評価

全校生徒が少ない中、部活動として活動しているソフトテニス部は、現在のところ部員が不足することなく活動ができている。これは、池田スポーツクラブの実施種目にソフトテニス教室があり、唯一、学校部活動にソフトテニス部があることから、小学校を卒業した児童が、継続してソフトテニスができる環境が整っているからである。また、指導者も変わらず継続して指導できる環境が、生徒にとっても不安なく取り組める環境＝総合型スポーツクラブとしての活動は評価できる。

●今後に向けて

少子化が進む中、今後活動できる種目も限られていくと思われる。学校部活動が完全に地域へ移行し、生徒が充実した環境の中でスポーツや文化活動に楽しく取り組める体制を整備していく必要がある。現スポーツクラブの活動はスポーツに特化した取り組みを展開しており、スポーツが苦手な生徒もいることから、指導者の確保は必要になるが、文化活動も選択できる体制を整備していく必要がある。

今後、休日の部活動地域移行と合わせて、平日の部活動地域移行をどの程度、どのように行っていくかを指導者と学校を交え検討していきたい。

広報資料

令和6年度 池田スポーツクラブ クラブ会員募集中!

はじめての方は、どの定期活動も一度無料体験ができます!

クライミング教室

キッズクラス
 <日時>水曜日 19:00~20:30
 <場所>町立クライミングウォール
 <指導者>山川 富数 先生・内方 可 先生
 <対象>小学生
 <月会費>1,000円/月
 初めての子も大歓迎です

一般クラス
 <日時>木曜日 19:00~20:30
 <場所>町立クライミングウォール
 <指導者>藤沢 要樹 先生
 <対象>中学生以上
 <月会費>1,000円/月
 初めての方も大歓迎です

育成クラス
 <日時>月・木・金曜日 17:00~19:00
 <場所>町立クライミングウォール
 <指導者>藤沢 要樹 先生
 <対象>小学生~高校生
 <月会費>3,000円/月
 中学校の部活動としても取り組みます
 高校生の方も歓迎です

ソフトテニス教室

<日時>水曜日 19:30~20:30
 <場所>町民体育館
 <指導者>村上 正直 先生
 <対象>小学生以上
 大人も歓迎! 楽しくテニスをしましょう

カンフー教室

<日時>月曜日 19:30~21:00
 <場所>小学校体育館
 <指導者>加藤 芳郎 先生
 <対象>小学生以上
 カンフー体験から帯を使った武術まで学ぶことができます

サッカー教室

キッズクラス
 <日時>火・木曜日 18:30~19:30
 <場所>小学校体育館
 <指導者>鳥居 昌巳 先生・山本 崇司 先生
 <対象>小学2年生~6年生
 初めての子ども大歓迎!
 みんなでサッカーを楽しみましょう

一般クラス
 <日時>金曜日 19:30~21:00
 <場所>小学校体育館
 <指導者>鳥居 昌巳 先生・山本 崇司 先生
 <対象>中学生以上
 身体を動かして運動不足を解消しましょう

陸上教室

キッズクラス
 <日時>月曜日 19:00~19:40
 <場所>町民グラウンド、町民体育館
 <指導者>二瓶 秀和 先生
 <対象>幼稚園年長~小学2年生
 みんなで楽しく運動しましょう

一般クラス
 <日時>月曜日 19:40~20:40
 <場所>町民グラウンド、町民体育館
 <指導者>二瓶 秀和 先生
 <対象>小学3年生以上
 短距離走をメインに実施します。
 少しでも速く走れるようになりたい方、
 大人の方も歓迎です

※※ お知らせ ※※
 令和6年4月より、教室参加料(1回100円)は年間3,000円とし、年会費と合わせてご負担いただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

入会について

★参加したい教室がある場合は、次のとおり手続きしてください。
 1.以下のものを準備する。
 ①必要事項を記入した入会申込書(当ご案内下部) ②年会費と保険料(任意)
 2.クラブ事務局(池田町教育委員会事務局)に提出する。

※令和5年度会員の方も新規手続きが必要になります。

会費等について

※年会費には教室参加料(年間3,000円)を含みます。

区分	※年会費(必須)	保険料(任意)
中学生以下	5,200円	800円
高校生以上(64歳以下)	6,150円	1,850円
高校生以上(65歳以上)	5,800円	1,200円

※スポーツ安全保険への加入をお勧めします。
 ※保険に加入されない場合、怪我等された場合は自己責任になります。ご自身で保険に加入されることをお勧めします。
 ※途中でクラブを退会する場合は事務局までご連絡ください。但し、会費等の払い戻しはできません。

クラブ事務局

池田町教育委員会事務局
 〒910-2512 池田町福寿35-5 フック&コミュニティセンター「ツドエル」
 TEL: 0778-44-8006 FAX: 0778-44-7771
 (月~金曜日 8:30~17:30 土・日・祝日休み)

ご不明な点がある場合には、お気軽にお問い合わせください。
 きりと

令和6年度 池田スポーツクラブ入会申込書

記入日: 令和 年 月 日

フリガナ	性別	生年月日	昭和・平成
氏名	男・女		年 月 日 (歳)
住所	電話番号		
保護者氏名 (未成年の場合)	緊急連絡先 (携帯電話等)		

入会希望教室にをつけてください

<input type="checkbox"/> クライミング(キッズ)	<input type="checkbox"/> サッカー(キッズ)
<input type="checkbox"/> クライミング(一般)	<input type="checkbox"/> サッカー(一般)
<input type="checkbox"/> クライミング(育成)	<input type="checkbox"/> 陸上(キッズ)
<input type="checkbox"/> ソフトテニス	<input type="checkbox"/> 陸上(一般)
<input type="checkbox"/> カンフー	

【生徒・保護者への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ソフトテニスクラブ練習風景①】

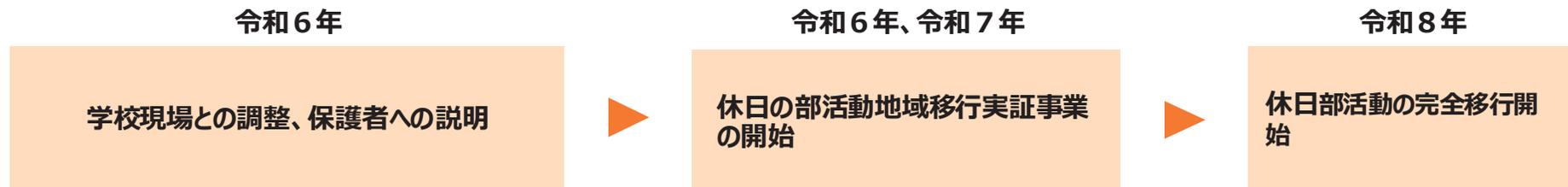


【ソフトテニスクラブ練習風景②】



【ソフトテニスクラブ指導風景】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●経過

令和6年度より、ソフトテニス部については地域スポーツクラブ指導者を配置し、休日の部活動をクラブとして試行する。

●実施にあたって生じた課題

指導者については、令和5年度も外部指導者として携わってこたことで、指導方法など一貫性があり生徒や保護者が混乱することはなかったが、休日の活動を行うにあたり、指導者に係る負担が大きく、指導者不足が課題となっている。

●実施内容

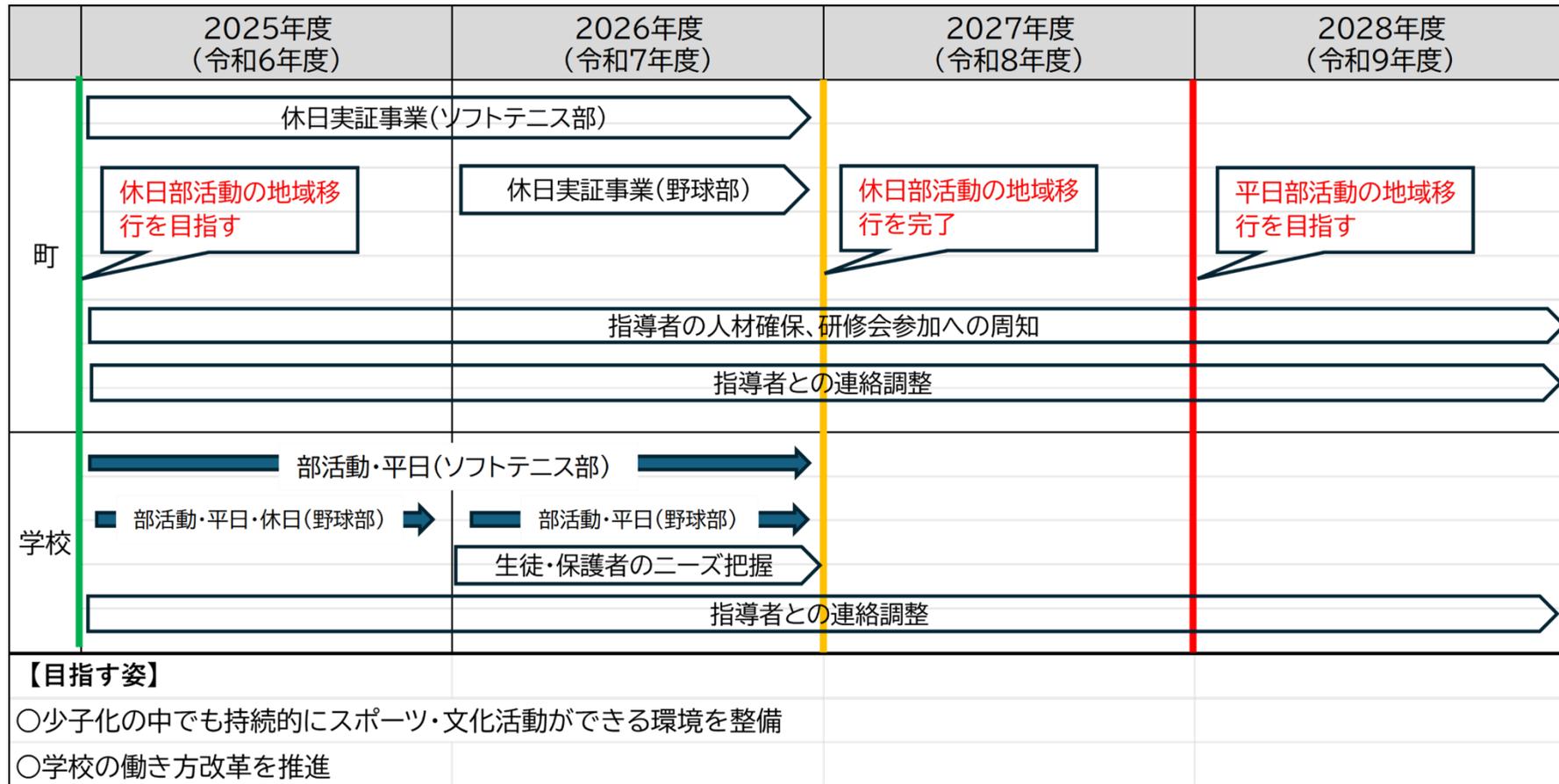
4月から、中学校の休日部活動を取りやめ、クラブ活動へ参加する試行的な取り組みを開始した。

●今後の展開

- ・令和7年度からは、ソフトテニス部の他に、野球部も休日の活動をクラブとして試行する。
- ・練習試合等、町外への移動手段については保護者の送迎が必要となってくるため、協力を得るための説明を行っていく。
- ・令和8年からは、休日の学校部活動は行わず、クラブ活動として実施する予定。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 南越前町

自治体名 : 福井県南越前町
担当課名 : 教育委員会事務局
電話番号 : 0778-47-8005

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	343.69 km ²
人口	9,442 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	253 人
部活動数	7 部活 (運動部のみ)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置あり (南越前町部活動地域移行推進協議会ワーキンググループ会議)
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現状としては、少しずつではあるが、競技ごとに移行が出来つつある。今年度は、女子バレーボール部を先行して休日の地域移行に取り組んだ。指導者と教員の連携をしっかりと、円滑に移行できた。また、移行期間にちなんで、9月の養成講習会で地域指導者の資格を取得した方を対象に実際に部活動にいき、指導を行った。(サッカー部、男女卓球部)

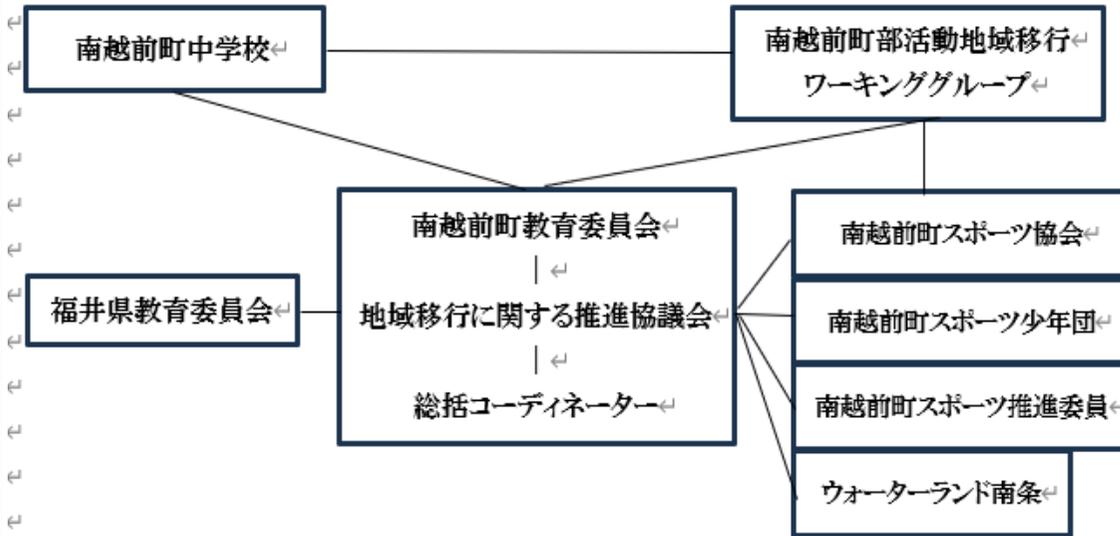
移行期間の指導により、教員と指導者の関係が強化され、来年度4月からでも移行できる部活動が出てきた。各部活動の移行は随時行う予定である。

課題として見えてきたのは、受け皿や運営体制である。当町では、スポーツクラブを運営できるような受け皿が整っていない。来年度の初期から受け皿の体制について協議する必要がある。また、地域指導者の人数や年齢層である。部活動によっては、多く指導者がいるが一方で極端に少ない部活動もありバランスが悪い。年齢層は少子高齢化で人口減少に悩んでおり、平均年齢は50歳を超える。若い世代で指導ができる人材を確保しなければ後継者問題にもつながる。未来のことを考えると、継続するための施策や方針も必要であると考えている。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会事務局

- ・総括コーディネーターの設置
- ・学校、地域との連携
- ・予算措置

◎首長部局

- ・役割はなし。主に教育委員会事務局で動いている。

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回ワーキンググループ会議
令和6年7月	第2回ワーキンググループ会議
令和6年8月	部活動担当教員向けアンケート実施
令和6年9月	第1回推進協議会 第1回地域指導者養成講習会
令和6年10月	女子バレーボール部生徒・保護者説明会 第3回ワーキンググループ会議
令和6年11月	第4回ワーキンググループ会議
令和6年12月	第2回推進協議会
令和7年2月	第5回ワーキンググループ会議 岐阜県羽島市県外視察研修
令和7年3月	女子バレーボール部、女子卓球部、サッカー部生徒・保護者説明会 第2回地域指導者養成講習会 第3回推進協議会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	30 人	全体の運営スタッフ数	0 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
女子バレーボールクラブ	南越前町教育委員会事務局	バレーボール	月3回/ 週1回（など）	3時間 8時間 (練習試合)	1年生：10 2年生：10 3年生：2	令和6年 10月～ 令和7年 3月	南越前中学校体育館 町外練習試合会場等	3 人	0 人	会費なし	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

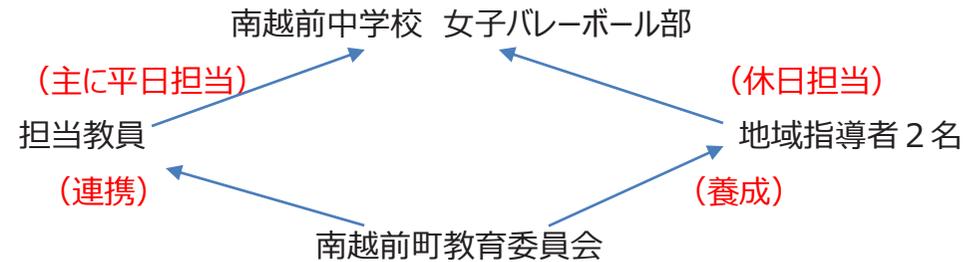
- 実績なし

主な取組例

●スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	女子バレーボール
運営団体名	南越前町教育委員会事務局
期間と日数	R6.10.1~R7.3.31 2,3日/月
指導者の主な属性	元教員OG、スポーツ推進委員
活動場所	南越前中学校 体育館
主な移動手段	保護者送迎もしくはスクールバス送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	※移行段階のためなし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 ※移行段階のためなし

●運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者 中学校教員 顧問 1名
役割：地域指導者との連携、指導方法の共有を行う。
- 主任指導者 1名
役割：顧問からの指導方法で指導をする、練習試合の調整を行う
- 運営補助者 1名
役割：指導の補助、練習試合の調整を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●推進協議会・ワーキンググループ会議 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

昨年度に引き続き、年3回の部活動地域移行推進協議会と今年度から新たにワーキンググループ会議を開催し、関係者との連絡調整や実施主体の整備について協議を行った。現時点では、実施主体の整備は整っておらず、協議の段階である。来年度も引き続き、両会議を開催し、実施主体については協議を行い、早い段階で決定する予定である。

取組の成果

新たにワーキンググループ会議を開催したことで意見等がまとまりつつある。今年度の方向性を固め、モデル部活動の休日地域移行を実現できたり、来年度どのようなことを試行的に行わなければいけないのか、協議できたりした。また、推進協議会ではワーキンググループ会議の意見を基に行った取組を報告した。

ワーキンググループ会議で意見がまとまらない案件は協議会で協議を行った。委員の方々から様々な意見をいただき、初めて行う取組を成功させることができた。（地域指導者養成講習会、モデル部活動の休日地域移行）

コーディネーターの具体的な動きの実績

年度初めに人材確保をした。各部活動に適している候補者をあげ、ある程度の候補者を固めた。年3回の推進協議会の他に新たにワーキンググループ会議を開催した。少ない人数で意見を出し合うことでコーディネーターを中心に方向性を固めることができた。

今後の課題と対応方針

今後の課題としては、受け皿や運営体制である。受け皿として適している団体を来年度の早い段階から協議し、決定する必要がある。また、ワーキンググループ会議も引き続き開催し、運営体制や新たにする取り組みについて協議する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●教員対象アンケート イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

総括コーディネーターを中心に各部活動に適した候補者を決定した。また、教員の意向を聞くため、アンケートを実施し、地域指導者として引き続き指導したいかを伺った。

登録者属性

- ・スポーツ推進委員
- ・教員OB・OG
- ・一般企業

種目

- ・軟式野球
- ・サッカー
- ・男女卓球部
- ・男女バレーボール部
- ・剣道部

資格有無

- ・地域指導者講習会を受講し、修了証を付与したもの

取組の成果

部活動の顧問・副顧問を対象とする地域指導者としての意向調査を行った結果、対象13人中、地域指導者として指導者として継続の意向がある人5人、意向がない人8人であった。また、意向がある人のうち現在の競技で指導をしたい人4人、別の競技で指導をしたい人1人の内訳であった。

また、地域指導者講習会は、休日の活動において、単に実技指導を行うだけでなく、個々の意欲や能力の向上、活動中の安全確保など、様々な視点から地域指導者のスキルアップを図ることができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●部活動地域指導者養成講習会 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

8:00～12:30の半日構成で開催している。

- ・総括コーディネーターより部活動地域移行概要説明
- ・地域指導者兼元教員より現場での役割について説明
- ・元学校長より中学校のスポーツ指導法について説明
- ・救急救命士よりスポーツ救急法について実技・説明

4部構成で行っている。3月に予定している研修会では、思春期の生徒の関わり方について新たに説明をいただく予定である。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年9月14日（土）
令和7年3月15日（土）【予定】
- ・開催回数： 2回
- ・参加人数： 20人（見込み）

受講者の声

非常に有意義な研修会だったという方が多い。しかし、教員目線では、生徒の命を守らなければいけない立場が増えるわけなので、半日の講習会で資格を与えていいものなのか、という声もいただいている。

今後の課題と対応方針

今後の課題としては、研修系の内容の充実である。半日の研修会で地域指導者資格を付与していいものか、協議会等で協議する必要があると考える。また、県が主催する研修会に参加したり、他市町の状況を聞いたりすることが対応方針だと考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

● 推進協議会・ワーキンググループ会議 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

昨年度に引き続き、年3回の部活動地域移行推進協議会と今年度から新たにワーキンググループ会議を開催し、関係者との連絡調整や実施主体の整備について協議を行った。現時点では、実施主体の整備は整っておらず、協議の段階である。来年度も引き続き、両会議を開催し、実施主体については協議を行い、早い段階で決定する予定である。

取組の成果

新たにワーキンググループ会議を開催したことで意見等がまとまりつつある。今年度の方向性を固め、モデル部活動の休日地域移行を実現できたり、来年度どのようなことを試行的に行わなければいけないのか、協議できたりした。また、推進協議会ではワーキンググループ会議の意見を基に行った取組を報告した。ワーキンググループ会議で意見がまとまらない案件は協議会で協議を行った。委員の方々から様々な意見をいただき、初めて行う取組を成功させることができた。
(地域指導者養成講習会、モデル部活動の休日地域移行)

バス等の運行実績

・運行実績なし

バス等の運航経費・収入

・経費・収入なし

今後の課題と対応方針

課題としては受け皿の体制・平日の地域移行である。受け皿が整わないと地域移行の土台がない状態である。平日は地域移行は、休日が整ってからではあるが、あり方について、現状行うのは難しいという状況である。

今後の協議会等で検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●活動場所・地域指導者、移動手段の確保 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・活動場所や地域指導者、移動手段の確保について、今年度にある程度固まった。活動場所は、従来通り中学校体育館やグラウンドを使用し、地域指導者は各競技によって人数のバランスが良くないが候補者は確保できている。移動手段は基本バス送迎となるが、場合によっては保護者送迎になる。

各自治体の役割

・特記事項なし

移動手段

・基本バス送迎
・町外の練習試合ではバス送迎
または保護者送迎

事務局運営の方法

今年度は、教育委員会事務局で事務局の運営をしている。行く行くは運営は外部の団体で行う予定であるが、決定していないのが現状である。

取組の成果

活動場所や地域指導者、移動手段の確保で方向性を固めることができた。そのため、来年度の方向性も固めることができた。今年度は、契約のことがありスクールバスでの送迎とした。来年度は、スクールバスの延長線上で休日は地区から学校ではなく地区から練習会場へ一本化したバスでの送迎を行う予定である。

今後の課題と対応方針

課題としては地域指導者の更なる確保である。年齢層が高いため、指導者の後継者不足が想定される。不足解消のため、若い世代で指導者を確保する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●女子バレーボール部の休日地域移行 オ：内容の充実①

取組事項

女子バレーボール部を

モデル部活動に指定して、課題等を精査検証した。

女子バレーボール部には、数年前から元教員を含む2名の部活動指導員が存在し、担当教員や生徒との信頼関係が構築されているため、女子バレーボール部を先行してモデル部活動に指定した。

活動の詳細

参加人数	20人	指導者数	2人
属性	教員OG、スポーツ推進員		
具体的な内容	休日の部活動において、教員（顧問・副顧問）の指導回数を徐々に減らし、地域指導者のみでの指導回数を多くした。練習試合も、保護者送迎を試験的に数回取り入れた。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域指導者の2名は、これまでも外部指導者としてコミュニケーションが取れており、特に戸惑い等の苦情は聞いていない。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 教諭（顧問・副顧問）・・・地域指導者との連携はスムーズに取れた。 ● 地域指導者・・・顧問からの練習計画に基づき連携した指導を心掛けた。生徒たちにバレーボールの楽しさを伝えることを第一に、違和感なく指導できた。 ● 保護者・・・特に不平や不満は聞いていない。 		
運営経費	0円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●世代間交流に関する取組み オ：内容の充実②

取組の成果

小学校と中学校、中学校と高校と一緒に活動をする取組を行った。

小学校と中学校ではスポーツ少年団OB・OGがスポーツ少年団の練習に参加したり、中学校と高校では、部活動のOB・OGが参加したりという取組を行った。

成果としては、世代間での交流を深められたこと、お互い刺激になったことである。

サッカーにおいては「町民サッカーフェスティバル」、卓球においては「町民卓球大会」を利用して、地元の小中高校生が集まる場を提供し、世代間交流の促進を図った。

今後の課題と対応方針

当町の部活動地域移行は、中学校に限定した形で行っている。地域スポーツクラブとして、生涯スポーツのような誰でも参加できるクラブチームがない。体制が整った状態で活動の年齢層を広げられたら良いと考えている。

多世代間交流は、地域スポーツクラブを立ち上げる上で大きなテーマであり、今後のワーキンググループ等で協議していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●対象部活動の保護者説明会の開催 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

総括した説明会ではあるが、保護者説明会の中で保護者負担について説明をした。部活動地域移行の概要と当町の流れについて説明をし、いつから保護者負担が発生してどのくらいのコストなのか説明をした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・分析なし

■ランニングコストの分析

・分析なし

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・スポーツ保険料
800円/1人

収支バランス

次年度からの保護者負担については、スポーツ保険料と若干の運営費をいただきたいと考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

● 学校備品の使用、学校体育施設使用料減免 キ：学校施設の活用等

取組事項

今年度は、モデル部活動の休日地域移行であったため、全て学校の体育施設・備品を使用した。

取組の成果

試行の段階であったため、従来通りの方法であった。特に成果はなかった。

今後の課題と対応方針

- ・各競技が練習時間が重なってしまうと、学校体育施設のみでは練習場所の確保が困難である。そのため、社会教育施設の利用が想定される。課題としては、送迎手段や備品である。対応方針としては来年度の低域開催の会議で協議を段階的に行うことである。
- ・保護者の負担軽減の観点から、学校体育施設の使用料減免、既存の学校備品の活用は必要不可欠である。今後、社会教育施設の利活用、さらには遠距離の生徒のバス送迎について健闘を進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●イ：地域指導者養成講習会 / ウ：推進協議会・ワーキンググループ会議

取組事項（イ）

- ・総括コーディネーターより部活動地域移行概要説明
- ・地域指導者兼元教員より部活動現場での役割について説明
- ・元学校長より中学校のスポーツ指導法について説明
- ・救急救命士よりスポーツ救急法について実技・説明

取組の成果（イ）

成果としては、地域指導者の指導幅が広がったことである。
緊急事態があった際の対応や指導方法等の内容のため、分かりやすい内容となっている。

取組事項（ウ）

昨年度に引き続き、年3回の部活動地域移行推進協議会と今年度から新たにワーキンググループ会議を開催し、関係者との連絡調整や実施主体の整備について協議を行った。

取組の成果（ウ）

新たにワーキンググループ会議を開催したことで意見等がまとまりつつある。今年度の方向性を固め、モデル部活動の休日地域移行を実現できたり、来年度どのようなことを試行的に行わなければいけないのか、協議できたりした。

今後の課題と対応方針

課題としては、イ：講習会の内容の質向上ウ：受け皿の体制・平日の地域移行である。

講習会については来年度改めて会議で協議をする予定である。受け皿の

体制や平日の地域移行に関しても来年度の会議で協議し、検討していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年10月から半年間、女子バレーボール部をモデル部活動に採用し、様々な精査検証を行っている。漠然と女子バレーボール部を選定したのではなく、地域移行に関する正副顧問（教諭）の理解度、保護者の協力体制への充実度、生徒の対応能力等を総合的に判断して、女子バレーボール部を選定した。

●成果の評価

- ①正副顧問（教諭）の指導回数を段階的に減らし、地域指導者だけの指導日を増やすことを実践した。
特に大きな不平不満は聞いていない。
- ②練習試合等でのバス送迎を試験的に保護者送迎とした。
坂井市三国中や福井市大東中など遠方への送迎もあったが、特に不平不満は聞いていない。保護者相互のネットワークで、上手く機能していたと実感している。
- ③大会結果等
正副顧問（教諭）のご尽力と地域指導者の連携した指導力の賜物だと思うが、南越地区バレーボール協会長大会で優勝し、県大会でも2勝して見事ベスト8に輝いた。

それらを総合的に判断して、おおむね順調に進捗していると考えます。保護者の理解が大きいと実感しています。

●今後に向けて

令和7年4月から、サッカー部・女子バレーボール部・女子卓球部を、正式に地域移行して休日は地域指導者が対応する。野球部・男子バレーボール部・男子卓球部・剣道部は、夏季中体連が終了後に新チームの体制が整った部活動から順次、休日の地域移行を進める方針である。

※現時点での大きな課題として、次の3点を念頭に置いている。

- ①地域移行の受け皿をどのように構築するか
- ②文化部（吹奏楽部・文化芸術部）の地域移行をどのように進めるか
- ③平日の地域移行を、どのように目途をつけるか

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.地域指導者として指導の意欲があるか?

アンケート回答者数 13名

・指導の意欲がある 7名

・指導の意欲はない 6名

●参加者の声

中学校教員

平日教員、休日地域指導者はなかなか難しい。練習試合は土日であり、大会も休日にあることが多いので、教員の部活動に対するモチベーションが無くなると思う。指導者をするなら完全地域移行になってからではないかと考える。

中学校教員

担当するのであれば、経験した競技で行いたい。練習試合や大会の引率送迎、指導者報酬、保険、契約期間等の検討案件が多い。

中学校教員

休日の地域移行をするのはいいが、何かあった際の責任所在を学校に持ってくるのはやめていただきたい。完全に部活動とクラブ活動で分けてほしい。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●令和5年

推進協議会を設置し、部活動地域移行の検討開始

●経過

協議会を設置し、検討が始まったが意見がまとまらなかった。

●実施にあたって生じた課題

意見がまとまらず、来年度の方向性が固まらなかった。

●実施内容、工夫した点等

- ・他市町の状況確認のため、鯖江市・永平寺町に視察へ行った。
- ・保護者・生徒へアンケート調査を行った。

●令和6年

ワーキンググループ会議の設置
保護者説明会の開催
地域指導者養成講習会の開催
モデル部活動の休日地域移行

●経過

円滑に進行している。

●実施にあたって生じた課題

地域指導者の出退勤管理

●実施内容、工夫した点等

- ・先進地の状況を知るため、岐阜県羽島市へ視察研修へ行った。
- ・推進協議会年3回実施
- ・ワーキンググループ会議年5回実施
- ・R6.10月より女子バレーボール部休日地域移行開始

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 越前町

自治体名：福井県越前町

担当課名：越前町教育委員会 教育政策推進室

電話番号：0778-34-8705

1.自治体の基本情報

基本情報（令和7年2月1日時点）

面積	153 km ²
人口	19,727 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	513 人
部活動数	6種目26活動
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現 状】

本町の4中学校では、男女剣道部、男女バレーボール部、男女ソフトテニス部、男女卓球部、軟式野球部、男女ホッケー部の6種目、計26の運動部活動がある。少子化に伴い、活動の選択肢の制限やチーム編成への影響、また、学校ごとに生徒数が異なり、活動数の相違等が発生している。教員にとっても、未経験競技の顧問を担うなど、業務負担につながっている現状がある。

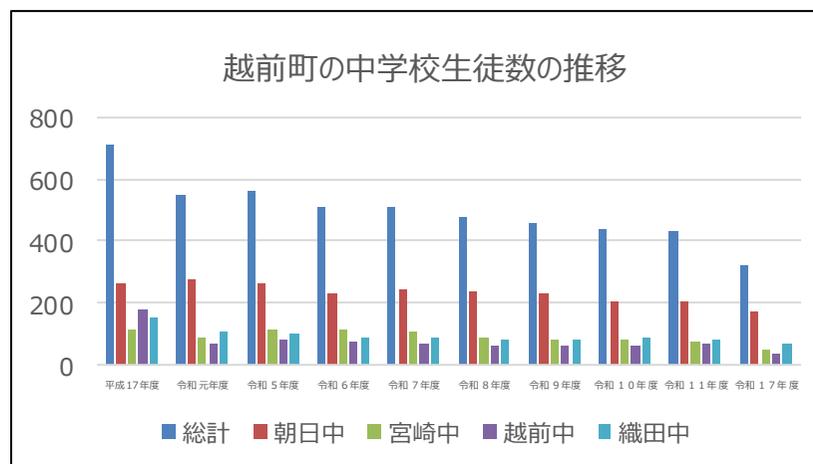
【課 題】

従来の学校で運営してきた部活動が、地域に移行することで発生する受益者負担などの観

点について、生徒や保護者、地域の方々への理解を促すことがまず第一に必要である。また、指導者確保や、大会出場の在り方、受け皿団体の発掘やその体制整備など、地域移行を進めていくうえでの課題は山積している。

以上のような状況下ではあるが、持続可能な活動環境を整備していくため、子どもたちにとって、平等に活動できる機会や、多様なスポーツに触れ合える機会を確保することを目指し、本町でも国の方針に従いながら「休日部活動」の地域移行を進める。

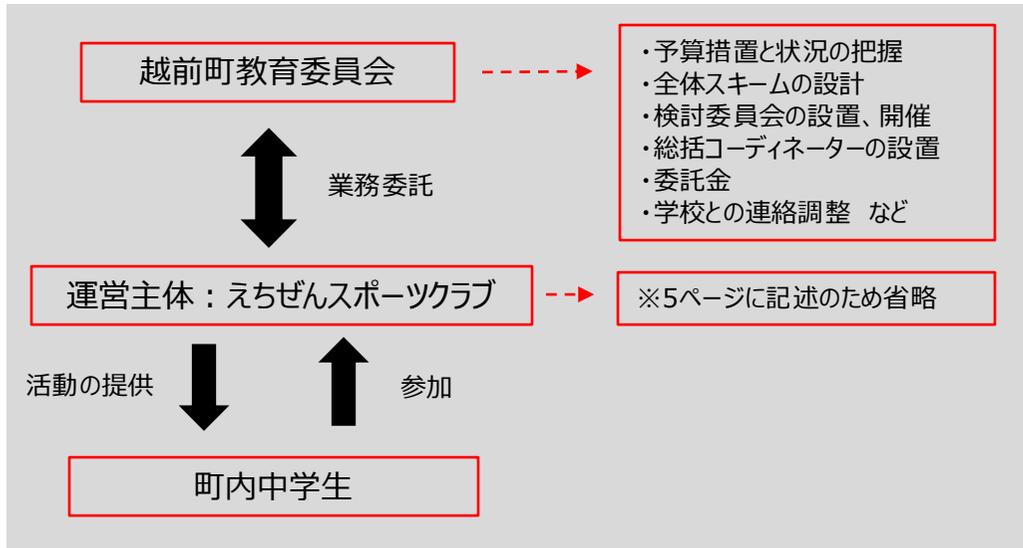
越前町の中学校生徒数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

（担当：教育政策推進室）

- ・検討委員会の設置、開催 … 地域移行に関する全体スキーム設定、その他協議
- ・えちぜんスポーツクラブとの連携 … 業務委託、総括コーディネーターの配置
- ・学校との連絡調整 … 各種ヒアリング、兼職兼業等の対応など
- ・各種説明会等の開催 … 町内中学生、保護者向け。アンケート実施など（関係する課：スポーツ振興課）
- ・地域スポーツの振興、各種スポーツ施設の管理・運営

- ◎**首長部局** ・教育委員会に対する予算措置

年間の事業スケジュール

R6.5	中学生保護者向け説明会の実施
R6.9	総括コーディネーターの配置 小中学生及び中学校教員にアンケート実施
R6.10	第3回 部活動地域移行検討委員会の開催
R6.11~12	○委員会内容を町内小中学生保護者に周知 ○モデル事業の実施に向けた調整 （対象：ホッケー、軟式野球、ソフトテニス） ・教員及び部活動指導員、関係者とヒアリング ・指導者の確保と調整 ・競技ごとに生徒向けオンライン説明会の実施 ・競技ごとに保護者向け説明会の実施 ・モデル事業の日程周知と参加者募集 ※上記の教員や生徒、保護者への説明は、モデル競技部活動に属する者のみに実施しており、別途、全体向けの周知も実施している。
R6.12~R7.1	モデル事業の実施に向けて指導者と打合せ（施設のカギの管理などについて）
R7.1~3	モデル事業の実施 対象の3種目について、各月1回ずつ、部活動では無く、クラブとしての活動を実施。 ※3月分は国補助の対象外
通年	えちぜんスポーツクラブ、各中学校長と協議 県内外市町の地域移行の状況調査 など

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	9校	実施した地域クラブ総数	5クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4クラブ（3種目10活動分）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	10～12人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 <small>※新規のものは末尾に（新）を付ける</small>	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
男子ホッケークラブ	総合型	ホッケー	月1回	午後 (3時間程度)	1年生10人 2年生10人 計20人	R7.1～3	社会 体育 施設	2人	1人	無	未確定
女子ホッケークラブ	総合型	ホッケー	月1回	午後 (3時間程度)	1年生8人 2年生9人 計17人	R7.1～3	社会 体育 施設	2～3人	1人	無	未確定
軟式野球クラブ	総合型	軟式野球	月1回	午前 (3時間程度)	1年生5人 2年生9人 計14人	R7.1～3	学校 体育 施設	2～3人	1人	無	未確定
ソフトテニスクラブ (男女混合)	総合型	ソフトテニス	月1回	午前 (3時間程度)	1年生11人 2年生11人 計22人	R7.1～3	学校 体育 施設	4人	1人	無	未確定

※参加者（学年別）について、欠席する者もいるため、申込者で換算している。

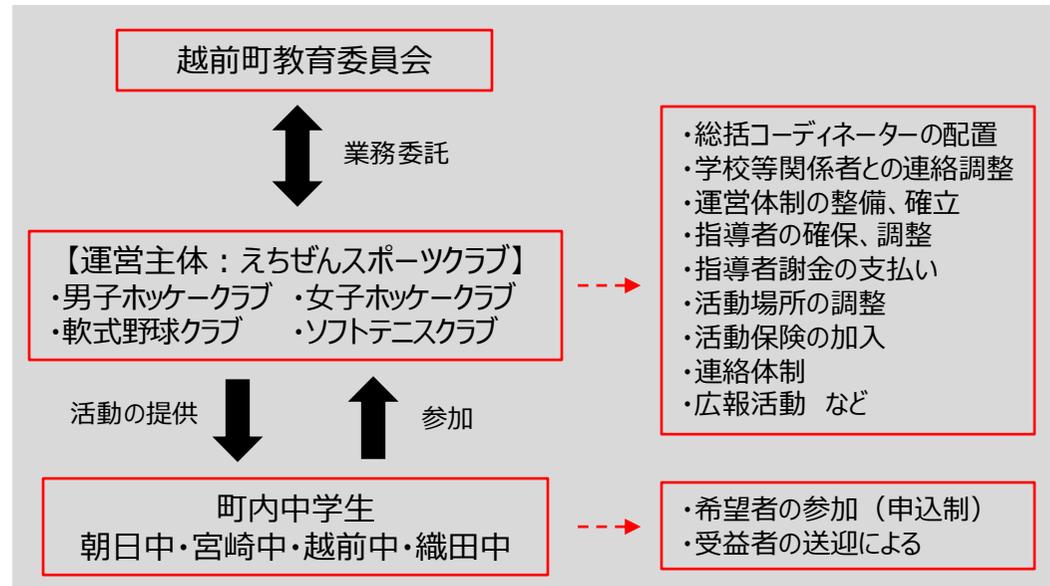
2.実証内容と成果

主な取組例

●えちぜんスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	①男子ホッケー ②女子ホッケー ③軟式野球 ④ソフトテニス
運営団体名	えちぜんスポーツクラブ
期間と日数	①～④共通 R7.1～3にかけて月1回
指導者の主な属性	中学校教員、部活動指導員 退職教員、クラブスクール指導者
活動場所	社会体育施設及び学校体育施設
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	徴収無し
1人あたりの保険料	月1回の活動のため、レクリエーション用の傷害保険(1日団体保険)に加入 ※種目(競技の危険度)によって金額が異なる。

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター兼クラブアシスタント

役割：部活動地域移行に係る調整役(学校とのヒアリングなど)

地域クラブ運営に係る諸業務を担う

●主任指導者 各クラブに1名

役割：運営主体との連携。クラブの指揮官(主任者)として指導を担う

●その他指導者 各クラブに1～2名

役割：主任指導者と共に指導を担う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

①検討委員会を開催し、地域移行の方向性を決定する。課題等を整理し、対策を検討する。

②地域移行の受け皿団体を選定し、運営及び実施体制を整備する。

③総括コーディネーターを配置し、町教育委員会や中学校等の関係団体との連絡調整及び指導助言を行う。

取組の成果

①町のスポーツ・文化芸術諸団体や各中学校の校長、保護者代表から構成される検討委員会を開催した。多方面の意見取り入れながら、本町の地域移行に係る方針を設定した。

②本町の総合型地域スポーツクラブ「えちぜんスポーツクラブ」を、関係課（スポーツ振興課）とも協議のうえ、地域移行の受け皿団体として選定した。

③総括コーディネーター（元行政職員）を「えちぜんスポーツクラブ」に配置することで、町教育委員会との連絡調整を円滑に行うことができた。また、連携を図りながら各中学校などの関係団体にヒアリングや打合せを行うことが出来た。

【令和6年10月24日】 部活動地域移行検討委員会開催状況



コーディネーターの具体的な動きの実績

総括コーディネーター（兼 クラブアシスタント）

- ・各中学校やクラブ指導者との連絡調整、ヒアリングを実施
- ・町教育委員会との連絡調整
- ・地域移行に係るクラブ運営業務（指導者謝金対応、連絡体制）

今後の課題と対応方針

- 地域移行を更に進めていくため、コーディネーターをキーパーソンとして他市町との情報交換を行うなど、横のつながりを強化していく。
- 受け皿団体の運営体制が弱く、更なる体制強化を図る。
（連絡体制の確立、収入増加のための取組み など）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ①地域クラブ活動の指導者を確保する
指導を希望する学校教員や部活動指導員、その他クラブのスクール指導者に協力を依頼する。
- ②指導者確保に係るヒアリングの中で、
本町の地域移行に係る方針の理解促進を図る。

取組の成果

モデル事業の実施にあたり、顧問教員や部活動指導員、現在活動しているスクール指導者とヒアリングを行った。本町の地域移行の方針に一定の理解を得られると共に、彼らの中から指導を担いたいという声もあり、クラブ活動を行う上での指導者の確保につながった。

実績：指導者の属性

- ・男女ホッケー：教員3名、部活動指導員1名、その他1名
- ・軟式野球：部活動指導員3名
- ・ソフトテニス：クラブスクール指導者3名、部活動指導員1名

人材バンクの人数

人材バンクの年齢構成

町の設置無し。前項【取組事項】のとおり、学校教員、部活動指導員の希望者に協力を依頼した。

種目

・男女ホッケー ・軟式野球 ・ソフトテニス ⇒ 3種目4クラブ分

資格有無

モデル活動であるため、資格の有無を指導者の条件に付してはいない。

指導者研修の内容

教員、部活動指導員、スクール指導者など、普段から指導に携わっている方のため、指導者研修は特段行っていない。ただし、生徒の心身管理の必要性や、体罰、ハラスメントの防止など、部活動に共通して遵守すべき点については、ヒアリングの時点で指導、伝達を行っている。

受講者の声

教員が指導を担ったことで普段の部活動との違和感が無く活動が出来た、との声がある一方、部活動との指導の異なっていることについての意見もあった。学校部活動と地域クラブ活動、両者の距離感をどれだけ縮められるかが今後の課題だ。

今後の課題と対応方針

- ・固定の指導者に負担にならないよう、量的な確保を図る。
- ・トラブル等が発生した場合の対応など、指導者マニュアルや安全管理マニュアル等を作成して、指導者に周知する。
- ・学校部活動と地域クラブ活動で、指導方法が異なるなど、生徒が困惑しないような体制づくり（共有の場を設定するなど。）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ①町内の学校体育施設、社会体育施設を有効的に活用する。
- ②学校部活動での使用もあるため、顧問教員等、学校側との調整を図る。

取組の成果

- ・モデル事業の活動場所として、町内の学校体育施設と社会体育施設を有効的に活用した。
実績：活動場所の属性
 - ・男女ホッケー：社会体育施設（旧中学校体育館）
 - ・軟式野球：学校体育施設（中学校体育館）
 - ・ソフトテニス：学校体育施設（中学校体育館）
- ・学校部活動の実施に影響が出ないよう、中学校（顧問教員）と事前に調整を図った。
- ・学校教員の負担が発生しないよう、活動場所の鍵の管理（開閉）はクラブの指導者が行った。

今後の課題と対応方針

- ①来年度以降に開設する地域クラブのことも見越し、参加者が困惑しないように、競技ごとの活動拠点を設定する。
学校施設を利用する際は、地域クラブ活動が優先利用できるよう学校側や施設所管課と協議する。
- ②施設の設備や備品等の破損があった場合、責任の所在の明確化やその対応の仕方について協議する。（ルールの策定など。）

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本町は昨年度まで、部活動の地域移行をどのように進めていくか、具体的な内容や方針が全く定まっていなかった状況であった。今年度は、3回目の検討委員会で大まかな地域移行の方針設定が出来たこと、1～3月に、各月1回という少頻度ではあるものの、3種目でモデル事業（試験的な地域移行）の実施が出来たことは、大きな一歩を踏み出したと言える。

しかしながら、地域移行に係る課題はまだ山積している。今後は、総括コーディネーターや受け皿団体「えちぜんスポーツクラブ」をはじめ、学校やスポーツ協会等の関係諸団体及び地域の方々の意見も取り入れながら、持続可能な環境を整備していくことを目指して地域移行を進めたい。

本町では、令和8年度から休日の部活動は行わず、地域で活動を実施することを方針として提示している。この方針に沿って進めていくことが出来るよう、令和7年度も国・県等の協力を得ながら事業に取り組んでいくこととする。

●成果の評価

令和6年度の始めから、中学生保護者向け説明会 ⇒ 検討委員会での協議 ⇒ モデル事業の実施に向けた説明会の開催や、その他情報周知の徹底を行うなど、本町の地域移行（地域クラブ活動）の形を形成するにあたって、業務を非常に丁寧に進められたことは、周囲からも一定の評価をいただいた。

また、「学校部活動」から「地域クラブ活動」になる、ということで、打合せや進捗の状況など、顧問教員等に対して情報共有を密に行っており、特段心配する声も無かった。これらの業務の進め方は来年度も引き継ぎたい。

●今後に向けて

地域移行に係る各種課題は山積しているが、来年度は、地域移行を進める＝地域クラブを運営するための体制整備を着実にを行うことを念頭に置きたい。

そのためには、第一に運営団体「えちぜんスポーツクラブ」の体制強化を図ることが必要である。活動場所の拠点化に向けた協議や連絡体制など、必要な体制づくりをクラブ側、教育委員会と連携しながら確立していく。また、活動を行う上で必須となる指導者についても、一定の質、量が保てるよう、人材の確保に向けた取組みを進める。

その他、生徒・保護者に困惑が生まれないよう、情報共有、周知を徹底する。

アンケート結果・広報資料などの参考資料

【令和6年12月 生徒・保護者向け説明会資料抜粋】

中学生の皆さんへ
【部活動の地域移行】 についてのお知らせ

◆全国の学校部活動で発生している問題

- 少子化で生徒数が少なく、部活動を維持していくことが難しくなっています。
 (例) 人数が少なくて部が足りない、活動のペースが止まる
- 部活動をこれらとどうにか、考えようとしている学校は少ないです。
【部活動の地域移行】が、全国でも注目されてきています。

◆【部活動の地域移行】とは・・・

- 学校で行う部活動が、学校以外で実施する**地域のクラブ活動**に変わって行われること。
 = 学校で行っていた部活動が、地域でクラブ活動になっていきます。
- 地域でも、人数が足りず、学校での部活動がなくなり、地域に移行して、今年度から、**地域(公民館、児童館など)の地域移行型部活動**を実施します。

◆部活動とクラブ活動の違い(部活動のメリット)

部活動	クラブ活動
活動時間	地域のクラブ
活動場所	公民館、児童館、学校、公園
活動内容	「楽しむ」「楽しむ」「楽しむ」が目的です。
活動費	無料、低額です。
活動時間	地域のクラブ
活動場所	公民館、児童館、学校、公園
活動内容	「楽しむ」「楽しむ」「楽しむ」が目的です。
活動費	無料、低額です。

◆今から3月までの動き

- 1月～3月まで、**部活動の移行準備期間**です。
- 移行期間中、**ワトナズ**の「ワトナズ」【地域移行】が目的です。
- 移行期間中、ワトナズ【地域移行】が目的です。
- 移行期間中、ワトナズ【地域移行】が目的です。

【部活動の地域移行】
 モデル事業の実証に関する情報公開資料

第1回 部活動の地域移行とは...

第2回 地域移行型部活動の実証と地域移行型に目指す姿について

第3回 本町の地域移行の考えについて

第4回 地域移行のメリットについて

第5回 地域移行のデメリットについて

第6回 地域移行の移行期間について

第7回 地域移行の移行期間について

第8回 地域移行の移行期間について

第9回 地域移行の移行期間について

第10回 地域移行の移行期間について

【令和6年12月 保護者向け説明会実施写真】



ホッケー競技対象



ソフトテニス競技対象

【地域クラブ活動参加者募集チラシ】

令和6年度 地域クラブ活動モデル事業
「ホッケークラブ」参加者募集

地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

募集時期	募集場所
令和7年 1月19日(日) 13:30~15:30	令和7年 1月19日(日) 15:30~17:30
令和7年 2月2日(土) 13:30~15:30	令和7年 2月2日(土) 15:30~17:30
令和7年 3月9日(土) 10:30~12:30	令和7年 3月9日(土) 14:30~16:30

1. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

2. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

3. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

4. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

5. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

6. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

7. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

8. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

9. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

10. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

11. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

12. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

13. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

14. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

15. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

16. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

17. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

18. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

19. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

20. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

令和6年度 地域クラブ活動モデル事業
「軟式野球クラブ」参加者募集

地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

募集時期	募集場所
令和7年 1月19日(日) 8:30~11:30	令和7年 1月19日(日) 13:30~16:30
令和7年 2月2日(土) 8:30~11:30	令和7年 2月2日(土) 13:30~16:30
令和7年 3月9日(土) 8:30~11:30	令和7年 3月9日(土) 13:30~16:30

1. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

2. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

3. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

4. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

5. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

6. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

7. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

8. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

9. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

10. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

11. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

12. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

13. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

14. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

15. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

16. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

17. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

18. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

19. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

20. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

令和6年度 地域クラブ活動モデル事業
「ソフトテニスクラブ」参加者募集

地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

募集時期	募集場所
令和7年 1月19日(日) 8:30~11:30	令和7年 1月19日(日) 13:30~16:30
令和7年 2月2日(土) 8:30~11:30	令和7年 2月2日(土) 13:30~16:30
令和7年 3月9日(土) 8:30~11:30	令和7年 3月9日(土) 13:30~16:30

1. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

2. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

3. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

4. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

5. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

6. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

7. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

8. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

9. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

10. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

11. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

12. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

13. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

14. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

15. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

16. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

17. 活動内容
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

18. 活動場所
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

19. 活動時間
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

20. 活動費
 地域移行型中学生男子の部活動です。
 大人と一緒に練習しましょう！

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【男子ホッケークラブ：練習風景】



【女子ホッケークラブ：練習風景】



【軟式野球クラブ：顔合わせ（自己紹介）】



【ソフトテニスクラブ：指導の様子】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

検討委員会の設置
協議開始

令和6年度

・検討委員会での協議継続
・総括コーディネーターの配置
・受け皿となる団体の選定
・中学校等、関係団体とのヒアリング
・生徒、保護者向けの説明会の実施
・地域クラブ活動（モデル事業）の開始

令和7年度～

・検討委員会での協議継続
・地域クラブ活動の拡大
・活動の拡大に向けた業務継続（ヒアリング等）

●ステークホルダー

越前町、越前町教育委員会、総括コーディネーター、えちぜんスポーツクラブ、町内中学校、越前町スポーツ協会

●経過

令和5年度より「越前町部活動地域移行検討委員会」を設置し、協議を開始した。令和6年、えちぜんスポーツクラブを地域移行の受け皿団体に選定し、クラブ内に総括コーディネーターを配置した。10月に開催した3回目の検討委員会にて、地域移行に係る大まかな方針を設定し、運動部活動のうち3種目でモデル事業（試験的な地域移行）を実施するに至った。今後は、モデル事業を実施した種目以外の運動部のクラブ化に向けて動くと共に、えちぜんスポーツクラブの持続可能な運営体制を整備する取り組みを進める。

●実施内容、工夫した点等

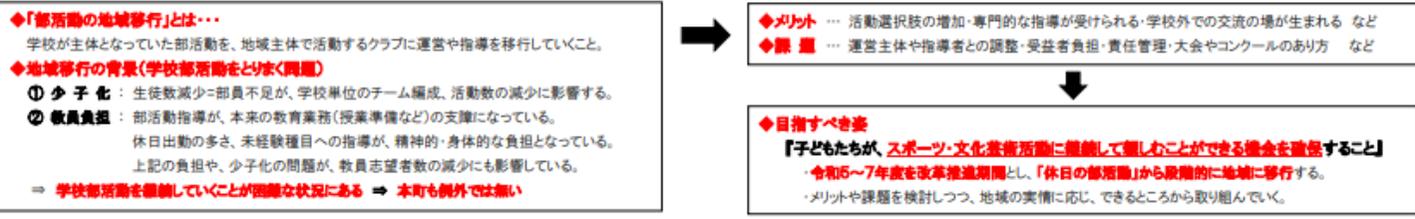
本町の学校部活動は全員参加制を推奨していることに対し、地域クラブ活動は自由参加制となるため、学校部活動よりも参加人数が減少することが想定された。そのため、地域移行の形としては、学校単位では無く、町内4中学校全体を対象にして参加者を募り、活動を実施した。

●実施にあたって生じた課題など

- 指導者の確保 … 今年度、教員や部活動指導員、スクール指導者といった身近なところに話を持ち掛け、指導を担っていただいたが、教員には定期異動があり、指導員の高齢化も進んでいるため、クラブ活動に適する質的、量的な人材の確保が必要だ。
- クラブの人数不足 … 町内全中学校から参加者を募集し活動したが、今後の少子化の影響でクラブの人数不足が懸念される。その際、どのように対応していくか検討していく必要がある。
- 受益者負担 … 受け皿となるえちぜんスポーツクラブの持続可能な運営体制を整備していくため、受益者の費用負担は必要不可欠である。今年度のモデル事業は費用負担無しで実施したが、今後、適切な金額設定を行っていく必要がある。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

越前町中学校部活動の地域移行に向けたロードマップ



★ 学校教育の一環として実施

□ 活動頻度 … 週4日程度

- 平日：週3日(月・木は休業日)、放課後2時間程度活動
- 休日：土・日どちらか1日、3時間程度の活動

□ 指導者 … 教員・部活動指導員による

- 部活動指導員は、運動部26部に11人、文化部6部に2人、計32部活動に13人配置している。

★ 休日の部活動を学校から切り離すための準備期間 (令和7年度末まで)

- 状況 休日に《部活動》と《クラブ活動》が併存している状態できるところからクラブ開設し、活動頻度も調整する。
- 参加方法 部活動：全員参加制を推奨(現状どおり) クラブ：希望者による自由参加制
- 受け皿 えちぜんスポーツクラブ
- 受益者負担 部活動：現状どおり クラブ：費用は補助金次第で調整。送迎は受益者による。
- 指導者 部活動：教員、部活動指導員 クラブ：地域の指導者

★ 休日部活動の地域移行完了 (令和8年度から)

- 状況 休日部活動の廃止 ⇒ クラブ活動のみの体制
- 参加方法 希望者による自由参加制 未経験活動・複数活動への参加・参加しないという個人の選択
- 受け皿 A：えちぜんスポーツクラブによる運営の一元化 B：任意団体による独立した活動
- 受益者負担 費用は会費徴収、送迎も受益者による。
- 指導者 クラブ：地域の指導者

★ モデル事業の実施

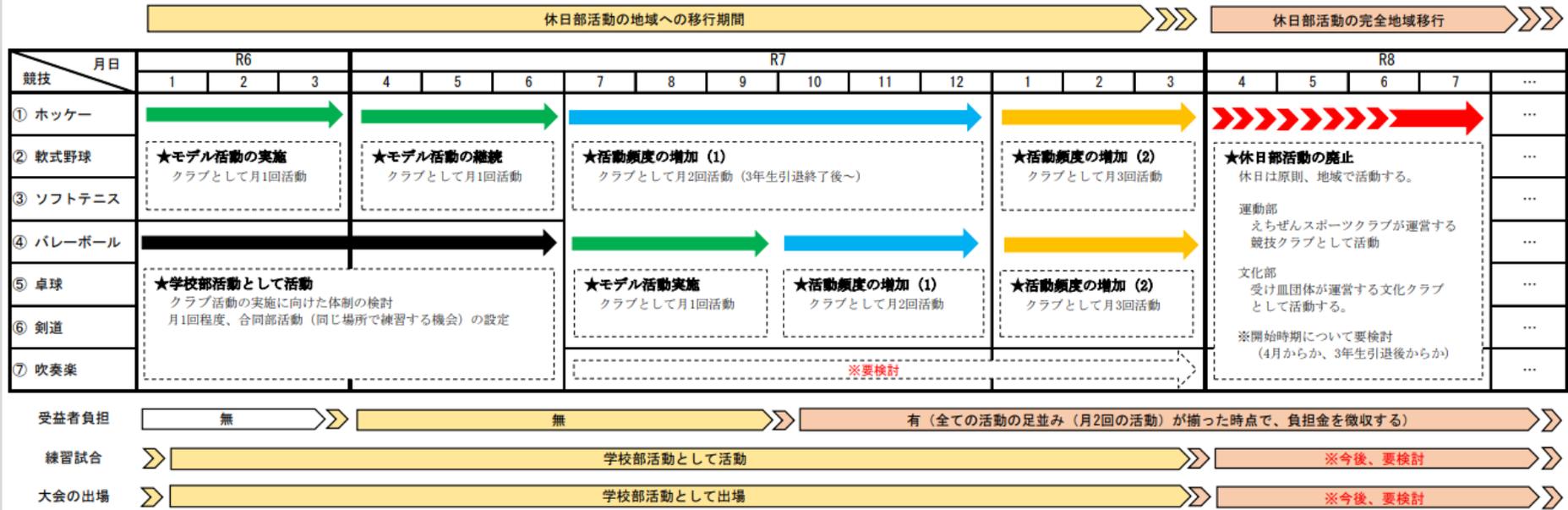
- ・令和6年度末まで、月1回程度、部活動競技の中から選定したモデル種目を試験的に移行する。
- ・モデル競技は、「ソフトテニス」「ホッケー」「野球」の3種目とする。
- ・対象生徒は、モデル競技の部活動に属する中学生とする
- ・実証事業を参考としながら、今後の地域移行に係る取組に向けた各種課題を検討する。(えちスポの運営体制構築指導者となる地域人材の確保と調整、会費の調整など)
- ・受益者の費用負担(会費、保険料)は原則無し。送迎は、乗り合わせなど保護者をお願いする。

月	検討委員会	モデル競技実証事業に向けて		その他	
		教育委員会	えちスポ・コーディネーター	教育委員会	えちスポ・コーディネーター
9		【実施に向けた調整】 指導者、学校との協議調整 ↓ 実施日・活動場所の調整			
10	【第3回】 地域移行の考え方を 進め方ほか	参加希望生徒、保護者向け説明会	参加募集とりまとめ		
11		【実証事業の実施】 男女ソフトテニス・男女ホッケー・野球の3種目、 月1回、年度内計5回程度を実施予定		【モデル競技以外のクラブ活動に向けて】 剣道・男女卓球・男女バレーボール 吹奏楽ほか文化部、新規活動 指導者、学校との協議調整 ↓ 実施日・活動場所の調整	
12				参加希望生徒、保護者向け説明会	参加募集とりまとめ
1	【第4回】 実証事業状況把握 進捗状況報告ほか	実証事業の状況と 問題点の把握 ↓ 改善案の構築 ↓ 検討委員会に報告	モデル実証事業の実施 参加生徒、保護者、指導 者にアンケート ↓ 検討材料として把握 ↓ 状況を教育委員会に報告		「地域移行完了」に向け、 体制整備のための検討 (会費設定、指導者採用 要件など)
2					
3					
4	【第5回】 実証事業総括 全体進捗報告ほか				
5				【地域への移行準備完了】 ・中学校部活動競技のできるからからクラブ開設 ・実証事業職員と併せて、活動頻度を徐々に増やす。	

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

休日部活動の地域移行—令和7年度のスケジュール（案）について



【本町の中学校部活動をめぐる実情】

- ・部活動数が少なく、活動の選択肢が制限されている。
- ・学校単位でのチーム編成に影響が出ている。
- ・各中学校の生徒数規模により、活動数に相違がある。
- ・顧問教員の経験の有無 … 業務負担になっている。



【目指す姿】 = 持続可能な活動環境を整備する

- ・町内中学生にとって、平等に活動できる機会の確保
- ・多様なスポーツ・文化芸術活動に触れ合える機会の確保

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 美浜町

自治体名：福井県美浜町

担当課名：美浜町教育委員会事務局 教育総務課

電話番号：0770-32-6708

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	152.35 km ²
人口	8,654 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	187 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置なし
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

美浜町では中学校 1 校体制で、以下の部活動がそれぞれに活動している。

【運動部】

陸上部、ボート部、男女ソフトテニス部、男女卓球部、野球部、女子バレーボール部

- ・男女卓球部については、部活動指導員を配置。
- ・男女ソフトテニス部については、地域指導員。

【文化部】

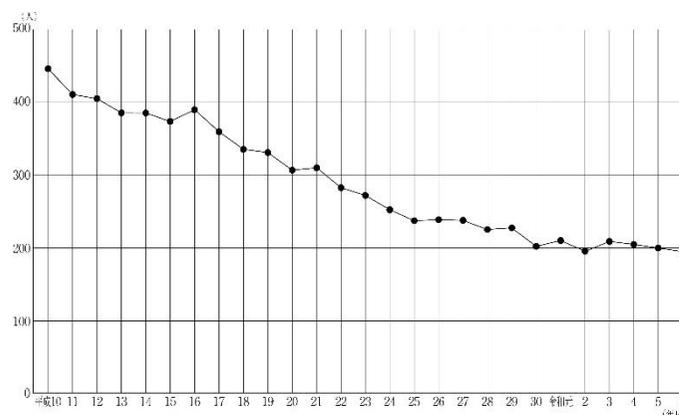
吹奏楽部、美術部

この中でも、ボート部は、ボート競技が昭和43年の1巡目国体開催を契機として、半世紀以上にわたって

取り組んでいる中で、競技力向上と競技人口の拡大を目的に創設されたものである。

近年、少子化による競技人口の減少や指導者の確保が課題となっており、福井県ローイング協会が、先頭に立って「ジュニアローイングクラブ」を立ち上げ、選手育成を図るとともに、拠点校における休日の地域におけるスポーツ活動の実践をととして、持続可能な運動部活動の在り方を検討してきた。

一方、その他の部活動についても、同じ課題を抱える中で、受け皿となるクラブチームが設立される動きが見られ、町としても地域移行の着実な進展を図るため、次年度以降も協議・検討を重ねていく予定である。



美浜中学校 生徒数推移 出典：2024美浜町学校教育要覧

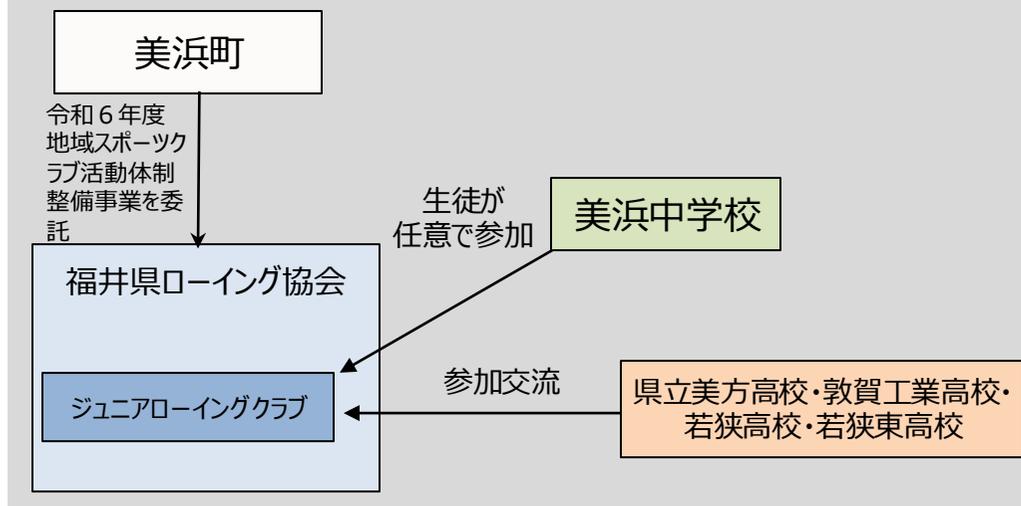
【課題】

現在の美浜町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

●教育委員会（教育総務課）

教育総務課 : 実証事業担当課
スポーツ推進室

年間の事業スケジュール

時期		計画事項	
4月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
4月28、29日	2日	岐阜レガッタ出場	川辺漕艇場
5月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
6月	5回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
6月30日	1日	津幡レガッタ出場	津幡漕艇場
7月	3回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
7月7日	1日	外注発掘事業	県営体育館
7月	4回	練習・合宿	県立艇庫・久々子湖漕艇場
7月22、23日	2日	全日本中学選手権競漕大会	川辺漕艇場
8月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
8月18日	1日	体験事業	県立艇庫・久々子湖漕艇場
8月18日	1日	福井県民スポーツ祭	久々子湖漕艇場
9月	3回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
9月28、29日	2日	全国中学校新人ボート大会	円山川漕艇場
10月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
11月	5回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
12月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
1月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
2月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月	4回	練習	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月	6回	練習・合宿	県立艇庫・久々子湖漕艇場
3月22、23日	2日	全国中学校選抜大会	久々子湖漕艇場

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	8人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
福井県ローイング協会	競技団体運営型	ローイング	月4回程度	8:00 ～ 12:00	3年：8人 2年：6人 1年：9人	4月～3月	福井県立久々子湖漕艇場	6人	8人	月会費／5,000円	中学校：部活動 その他：クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

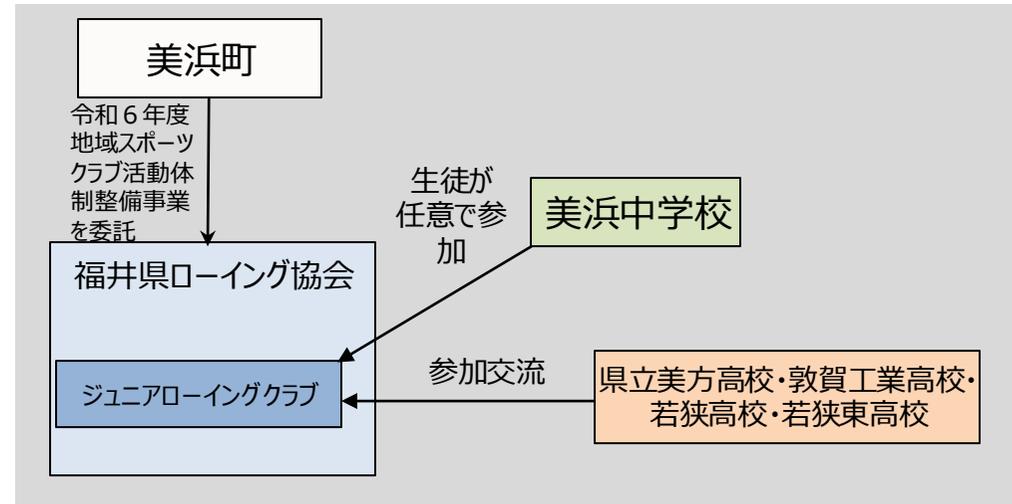
- 7/7 「タレント発掘事業」（福井県営体育館）参加
- 8/18 「体験会」（福井県立久々子湖漕艇場）運営

主な取組例

●福井県ローイング協会 活動概要

拠点校名	美浜中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	ローイング競技
運営主体名	ジュニアローイングクラブ
運営類型	競技団体運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	ローイング：月4回程度
指導者の主な属性	競技及び指導経験者
活動場所	福井県立久々子湖漕艇場
主な移動手段	保護者自家用車による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	ローイング：60,000円 (5,000円/月額)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：1,450円/年 指導者1人あたり：10,150円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

クラブ職位	福井県ローイング協会職位
代表	理事長
副代表	事務局次長
事務局長	事務局次長
チーフコーチ	4名（全国大会優勝・日本代表経験者：中学校部活動顧問）
サポートコーチ	2名（全国大会優勝経験者）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

担当部局と福井県ローイング協会が連携を図りながら、実証に臨む。

取組の成果

- ・この事業も4年目を迎え、担当部局と福井県ローイング協会との連携がなされ、実証事業についても円滑に取り組むことができた。
- ・クラブ設立から4年が経ち、保護者からは、送迎、月謝、活動について理解が得られている。
- ・充実した指導体制をとっており、生徒からの満足度も高い。
- ・指導者もやりがいを感じており、地域貢献や生徒の成長に喜びを感じている。
- ・全国大会で2年連続優勝するなど、クラブ活動により選手が高い競技スキルを習得することができた。

今後の課題と対応方針

- ・引き続き、月間活動回数を維持し競技レベルの向上を図るとともに、クラブ会員を県域で募集し、能力の高いタレントの確保また育成を行い、高校部活動へ繋げ中高一貫指導体制の一助とする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

町技であるボート競技を対象として
おり、受け皿となっていた福井県
ローイング協会から公認コーチの資
格を有した複数名の指導者を配置
し、指導の質の保証を図る。

登録者属性

活用なし

種目

・ローイング

資格有無

福井県ローイング協会
公認のコーチ資格

取組の成果

全国大会優勝経験を有する指導者を確保し、高いレベルでの指導できる環境を整えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【指導者間の情報共有とスキルアップ】

- ・対象 指導者全員
- ・目的 選手の体調や成長度合い等の情報共有や指導者の指導スキルの向上を目指す。

- ・頻度 毎練習毎

【高校カテゴリーの指導者との連携】

- ・対象 指導者全員
- ・目的 中高一貫指導体制を確立するため、高校指導者との情報共有や指導スキルの向上のための指導助言を得ることを目的とする。

- ・頻度 適宜

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 11月 9日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 5人
ローイング協会内の指導者研修（情報共有や指導スキルの向上のための指導助言を得る）

受講者の声

- ・現行 6名の指導者については、全国大会優勝経験を有する高いスキルを持った指導者であり、保護者からもレベルの高い指導力について、評価いただいている。

今後の課題と対応方針

- ・今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図る必要がある。
- ・女性指導員の育成を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

既に美浜町、美浜中学校、福井県ローイング協会は連携をとっている中で、更に情報共有を図り、連携強化に努める。

取組の成果

- ・ボート顧問が、クラブ指導員として役割を担う中で、美浜中ボート部とジュニアローイングクラブの情報共有、指導理念の共有推進が図れた。
- ・中高一貫指導体制を確立するため、高校指導者との情報共有を図り生徒が長期で成長しやすい環境構築を図れた。

今後の課題と対応方針

今後地域移行が進む中で、施設利用の調整が必要になる。冬季間の施設活用について、他競技団体との密な連携を検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

クラブでは、県内全域の選手を受入れ対象としていることを踏まえ、町外選手と一緒に活動することで、部活動の枠をこえた交流を図る。

各自治体の役割

美浜町教育委員会事務局
・地域クラブへの運営補助

ローイングの町スポーツ推進室
(教育委員会事務局内設置)
・各団体と連携

移動手段

保護者自家用車による送迎

事務局運営の方法

・福井県ローイングクラブとして、団体の運営を行い、指導に当たるジュニアローイングへのバックアップを行う。

取組の成果

- ・県外合同練習会を行うことにより、部活動の枠を越えた交流が図れた。
- ・毎年3月に実施している「全中選抜ローイング大会」においても、大会終了後に他県選手との交流レースを行う中で、互いの技量向上につながっている。

今後の課題と対応方針

・次年度以降も、こういった取り組みを進めていく中で、スポーツ留学選手の確保につなげるとともに、「ボート王国福井」の競技力向上と裾野拡大に取り組んで行く必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ・ボート競技以外のトレーニング（トレイルラン）を取り入れ通常部活動ではできない活動をする予定であったが、悪天候のため中止した。

取組の成果

- ・特になし

今後の課題と対応方針

- ・専門的な指導者の配置により、レベルの高い指導を行う。また、ボート競技以外のトレーニング（登山、トレイルラン、メンタル研修）等を取り入れ通常部活動ではできない活動をすることで内容の充実を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・補助金の活用により保護者負担を軽減する。

取組の成果

- ・経済困窮世帯の参加費負担軽減について、地域移行が進む中で他競技団体との足並みを合わせるため、検討のみに留まった。

今後の課題と対応方針

- ・保護者が負担や不平等感を感じないよう適切な支援を検討していく共に、団体が補助金等を活用しなくても運営していけるよう企業支援等の自主財源の確保をしていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・冬期のトレーニングにおける、学校施設の活用
- ・学校施設の電子予約システムの導入

取組の成果

- ・ローイング競技については、湖上での練習が前提であり、冬季間における学校活用について、他の部活動とも調整しながら、校舎を活用したトレーニングを行うことにより、基礎体力の向上が図れた。
- ・電子システム予約導入については検討に留まった。

今後の課題と対応方針

- ・今後、他競技の地域移行が進む中で、限られた学校施設の活用を調整していく必要がある。他の部活動とも連携しながら、冬季間での学校活用に取組んでいくとともに、他の体育施設の活用についても検討していく。
- ・電子予約システム導入について、引続き検討していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本実証事業では、部活動の地域移行におけるモデルケースとして、全国優勝経験者を指導者として配置し、高い指導力のもとでのクラブ活動を実施した。指導者間での情報共有や研修を積極的に行い、指導の質の向上に努めた結果、競技力の向上だけでなく、生徒の成長を促す環境の整備にも寄与した。

一方で、他競技の地域移行に向けて整備が必要な課題もあり、競技間格差や保護者の不公平感など、今後も積極的な周知行い、理解を求めていく必要がある。

●成果の評価

全国優勝経験者を指導者として配置し、専門性の高い指導を実施したことで、競技レベルの向上が顕著に見られた。また、指導者同士の情報共有や研修を通じて、指導方法の統一と質の向上を図り、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出す環境を整えることができた。その結果、全国優勝を2年連続で達成し、競技成果だけでなく、保護者や地域からの信頼も得ることができた。

●今後に向けて

- ・今後も引き続き、競技経験者はもとより、全国大会優勝経験を持つ指導者の確保と充実を図り、生徒が高いレベルで成長や達成感を実感できる場を提供する。
- ・生徒が成長できる活動の場を長期的に確保するため、団体の適切な運営方法を検討していく。
- ・地域内に設置のある学校施設、社会体育施設など、活動できる場所が限られているため、他競技団体の施設利用調整を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【全国中学校選手権大会「優勝」】



【エルゴ指導】



【水上練習指導】



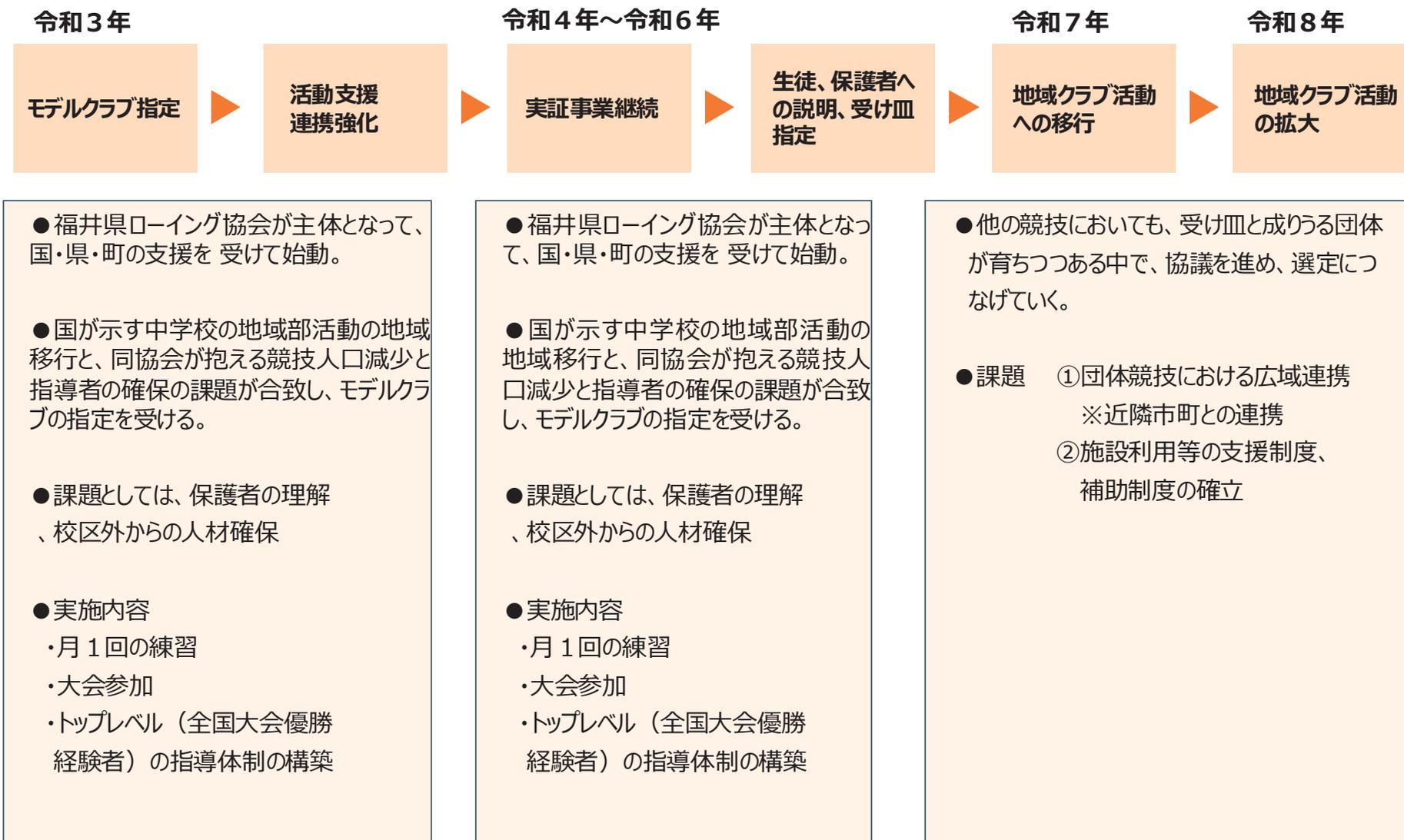
【エリートアカデミー
体験会】



【高校トップ選手との合同練習会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	R5	R6	R7	R8
国のガイドライン	国（スポーツ庁・文化庁） 休日部活動の移行 改革推進期間 R5~R7			休日部活動の地域 移行を目指す
町	モデルケース実証		学校施設や社会施設等の活動場所の確保	地域クラブへの運営補助
学校	部活動（平日・休日）		段階的に休日部活動の制限	部活動 平日のみ
			保護者への周知	
団体	モデルケース補助金交付		新たな支援策補助金申請・交付	地域人材（指導者）の募集・採用
			団体の適切な運用	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 おおい町

自治体名：福井県 おおい町

担当課名：教育委員会事務局学校教育課

電話番号：0770-77-1150

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	212.19 km ²
人口	7,547 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	249 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

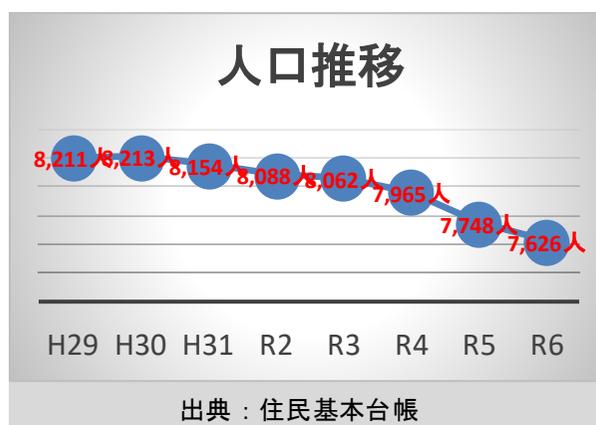
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当町では、令和5年度に休日部活動の部活動地域移行・地域連携検討会を設立し、またアンケートを2回実施して各方面からの情報収集を行い、おい町総合教育会議において令和6年度以降の方針を決定したところである。また、令和6年度には学校、PTA、スポーツ協会等を構成員に協議会を設立し、地域移行・地域連携に取り組んでいる。

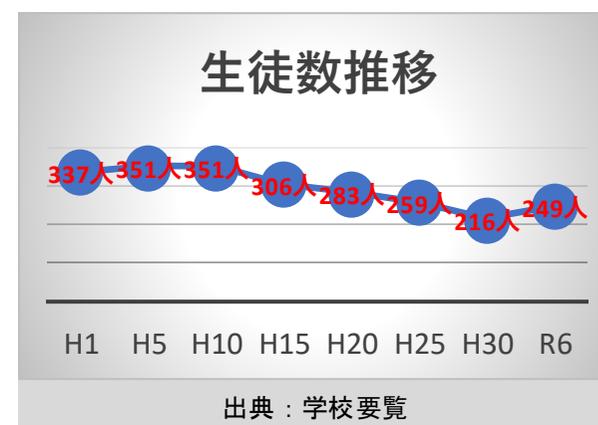
しかしながら、当町は中山間地であり、かつ細長い地形である。また、人口減少も進んでおり、現在の中学校在籍生徒数は町内で249人と少ない。町内には中学校は2校あるが、公共

交通機関を利用した交流は移動に時間を要するため難しい。近隣市町との交流も同様の理由で難しい。地域で休日部活動の受け皿をと考えているが、部活動のある種目でも地域に活動団体が無い種目がある。

人口推移



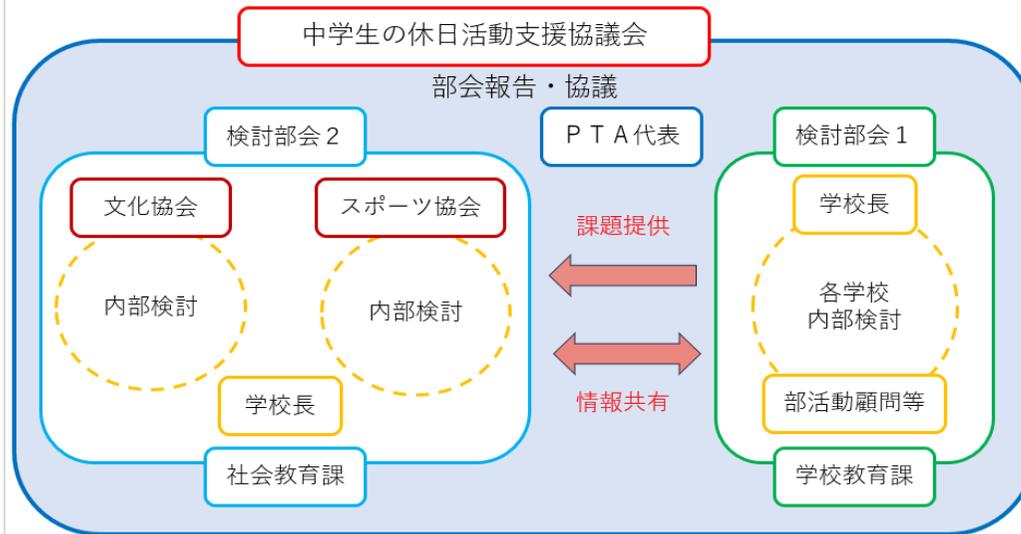
生徒数推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、協議会の運営
- ・社会教育課…スポーツ協会、文化協会、社会体育団体との連携・調整

◎首長部局

- ・総務課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回協議会の開催
令和6年7月	近隣市町情報交換会の開催
令和6年7月	第1回協議会検討部会1の開催
令和6年11月	第2回協議会検討部会1の開催
令和6年11月	第2回協議会の開催
令和7年3月	第3回協議会検討部会1の開催
令和7年3月	第3回協議会の開催

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総括コーディネーターが町担当職員と連携し、部活動地域移行・地域連携のため、協議会の運営、学校及びスポーツ・文化関係団体との連絡調整、連携等を行った。

取組の成果

総括コーディネーターを配置することにより、部活動地域移行・地域連携に関し、協議会の運営、学校及びスポーツ・文化関係団体との連絡調整、連携、近隣市町との情報交換等を円滑に行うことができた。

このことにより、スポーツ部活動の1種目において休日活動の新たな受け皿団体（本事業対象外）が設立された。また、地域移行していないその他の部活動においても、休日部活動地域移行の検討深度が深まった。

部活動種目	地域クラブの有無
軟式野球	有
バレーボール	有
バドミントン	有
サッカー	無
ソフトテニス	無
卓球	有

コーディネーターの具体的な動きの実績

総括コーディネーターが町担当職員と連携し、部活動地域移行・地域連携のため、協議会の運営、学校及びスポーツ・文化関係団体との連絡調整、連携等を行った。

今後の課題と対応方針

- 今後の課題：中学生の活動を受け入れる地域クラブの無い種目への取組と既存地域クラブの持続可能な運営への支援
- 対応方針：学校及びスポーツ協会等関係団体との連携のもと、新たな形態の受け皿団体の模索及び支援の在り方を検討する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

小規模自治体である当町において、職員が当該業務を専任することは不可能であるなか、本事業を活用して総括コーディネーターを配置することができた。

総括コーディネーターが、町担当職員と連携して、部活動地域移行・地域連携の推進のため、おおい町中学生の休日活動支援協議会及び同協議会検討部会の運営、町内2中学校、おおい町スポーツ協会及び同協会加入種目団体、おおい町文化協会及び同協会加入の文化活動団体との連絡調整、連携等を行うことができた。

その結果、部活動地域移行・地域連携に関する課題の洗い出しと対応について、きめ細やかに対応することが可能となった。

●成果の評価

総括コーディネーターを配置することにより、部活動地域移行・地域連携に関し、協議会の運営、学校及びスポーツ・文化関係団体との連絡調整、連携、近隣市町との情報交換等を円滑に行うことができた。

このことにより、スポーツ部活動の1種目において休日活動の新たな受け皿団体（本事業対象外）が設立された。また、地域移行していないその他の部活動においても、休日部活動地域移行の検討深度が深まった。

●今後に向けて

引き続き、当該事業の継続に期待して総括コーディネーターを設置していきたい。

本年度に洗い出された課題に対し、総括コーディネーターと町職員が連携し、また、町内2中学校やおおい町スポーツ協会、おおい町文化協会等関係機関とも連携しながら対応策を検討するとともに、実行的な部活動地域移行・地域連携の姿を具体化し推進していく。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、PTA、スポーツ協会、種目協会、競技団体
町教委、総括コーディネーター

経過

令和4年度より関係団体への説明、学校ヒアリングを開始し、令和5年度にはステークホルダーにより構成する検討会を設置、部活動地域移行・地域連携に関する方針を検討のうえ、教育委員会及び総合教育会議の審議を経て町の方針を決定した。令和6年度には協議会を設置し、地域移行等の課題の洗い出しと対応を検討した。

実施内容

令和5年度から町内2中学校の10部活動において月1回の休日の部活動を取りやめ、令和6年度には月2回を取りやめ、同時に地域クラブ活動へ参加を開始した。地域クラブ活動は全7クラブ（本事業対象外）が実施された。

実施にあたって生じた課題

中学校の休日部活動が減少するなか、地域クラブ運営の関係上、練習試合への参加機会が確保できない。

同様に、新規に設立された地域クラブのなかには、会費額の設定について、活動内容との見合いが手探りのため適当な金額設定に苦慮しており、用具の整備等活動財源捻出に苦慮している。

今後の展開

令和7年度からは、町内すべての中学校において、月3回の休日の部活動を取りやめ、令和8年度は休日の部活動をすべて取りやめることから、すべての部活動において地域クラブ活動に移行できるよう、関係団体と連携し検討を継続する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
協議会	● ● ●	● ● ●	
町教委	中学生の休日活動の環境整備の取組 部活動にない多様な活動に触れる機会増加の取組		地域移行充実の取組 新たな体系による支援
	中学校体育連盟主催大会等への参加支援 令和8年度以降の支援の在り方の検討		
学校	休日部活動 月2回取りやめ	休日部活動 月3回取りやめ	休日部活動 全部取りやめ
	中学生の休日活動参加への支援		
スポーツ協会等	令和8年度以降の支援の在り方の検討 地域クラブの在り方の検討		新たな体系による支援

町の方針
 ○令和5～7年度の3年間を改革推進期間とし、休日の活動を中学生が幅広く選択できる環境を整えることを目指す
 ○部活動にない多様なスポーツ、文化活動、地域貢献活動に触れる機会を増やす
 ○平日の中学校部活動は継続する

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 若狭町

自治体名：福井県若狭町

担当課名：教育委員会事務局

電話番号：0770-62-2731

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	178.65 km ²
人口	13,323 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	387 人
部活動数	16 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当町では、現在、三方中学校と上中中学校2校の中学校があり、両中学校とも1学年約65名程度の小規模中学校である。

若狭町の中学校においては、今後生徒数の減少が見込まれており、単独中学校で部活動を行うには団体競技が組めなくなることが予測され、部活動の活動体制自体を考えていく時期である。

部活動数の削減については、現状でも部活動数が少なく、生徒の選択肢が少ないために、これ以上削減することは難しい。

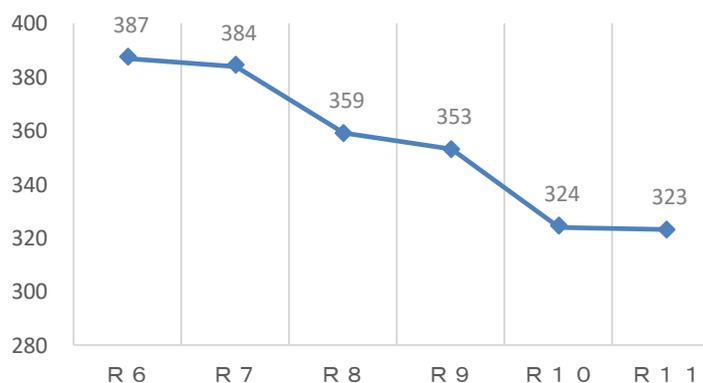
両中学校で合同部活動を展開していくことも想定できるが、両中学校は車で30分程の距離にあり、公共交通機関もJRが通っているが、便

数が少ないため、JRを利用して移動するのは難しい状況である。

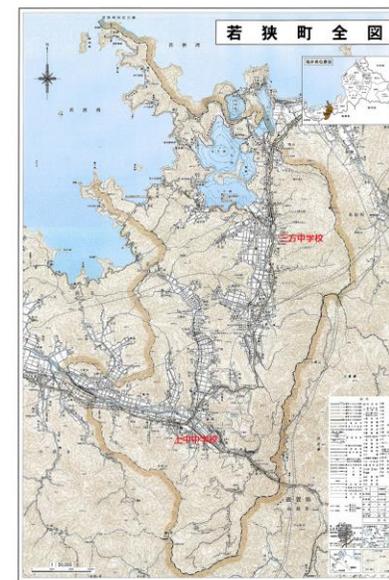
また、中体連主催の大会出場に関しては、三方中学校と上中中学校で予選ブロックが違うため合同チームで出場するとなると、どちらのブロックで参加するのかも課題となってくる。

地域移行の受け皿についても、都会の様に民間クラブがあるわけでもなく、総合型スポーツクラブもうまく運営できていない状況である。受け皿となる団体や指導者を一から探す必要があるが、中々見つからない状況である。

若狭町立中学校の生徒数推移



出典:若狭町教育委員会



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（スポーツ部局兼ねる）

- ・学校教育グループ：総括コーディネーターの雇用
中学校と地域クラブチームのつながりや情報提供の実施
スポーツ少年団などの新たな受け皿の確保に向けた説明会の実施
- ・社会教育グループ：スポーツ施設の整備
地域移行後における環境整備

教育委員会部局において、スポーツ・文化活動の対応を実施

年間の事業スケジュール

令和6年4月	新入生部活説明会
令和6年5月	地域移行チラシの配布
令和6年5月	保護者説明会
令和6年6月	第1回中学校との意見交換会
令和6年7月	クラブ設立団体説明会
令和6年7月	野球部の地域クラブ化
令和6年8月	第2回中学校との意見交換会
令和7年1月	新1年生保護者説明会
令和7年3月	指導者講習会 地域移行団体説明会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	7 人	全体の運営スタッフ数	10 人

②各クラブに関すること

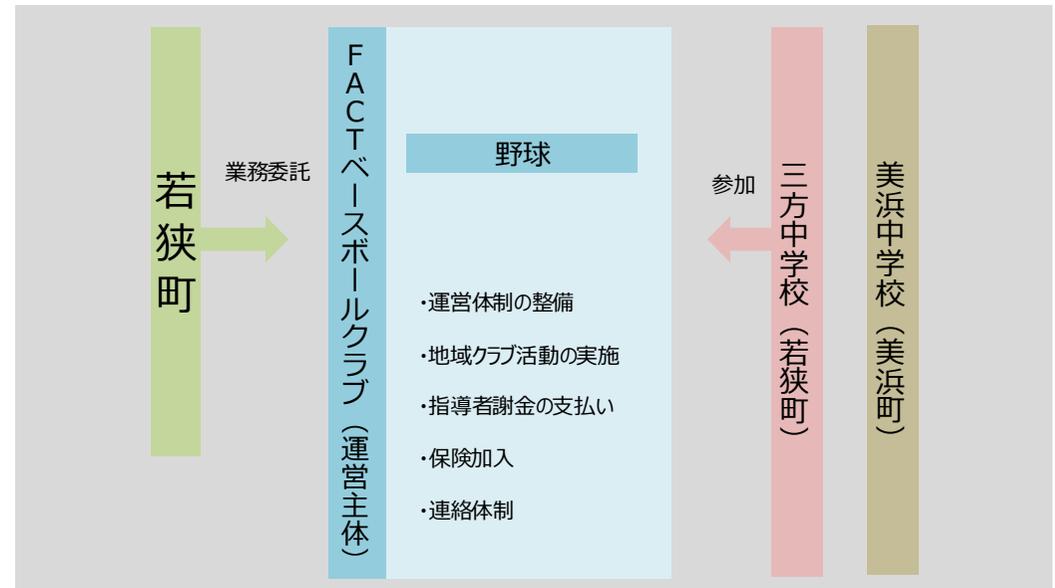
クラブ名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方 法
FACTベース ボールクラブ	地域 団体	野球	平日1回/週 休日1回/週	午後7時30分 から 午後9時 午前8時30分 から 正午	中1 13人 中2 12人	令和6年7月 から 令和7年1月	三方 中学校 美浜 中学校	4 人	5 人(兼務なし)	月会費 3,000円	地域クラブ
若狭SBC	地域 団体	ソフトボール	週1回	午前8時 から 正午	中1 4人 中2 6人	令和6年7月 から 令和7年1月	上中 中学校	3 人	5 人(兼務なし)	月会費 3,000円	地域クラブ

主な取組例

●FACTベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	FACTベースボールクラブ
期間と日数	7月1日～1月31日 平日1回/週 休日1回/週
指導者の主な属性	地域住民、教員（顧問ではない方）
活動場所	三方中学校 美浜中学校
主な移動手段	保護者による送迎 練習場所に応じて自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 代表：1名
役割：地域からの協賛活動や団体の総括を行う
- 副代表（指導者兼ねる）：2名
役割：チームの監督、事務局作業を行う
- 運営指導者：2名
役割：指導者のみの活動として、生徒に指導を行う

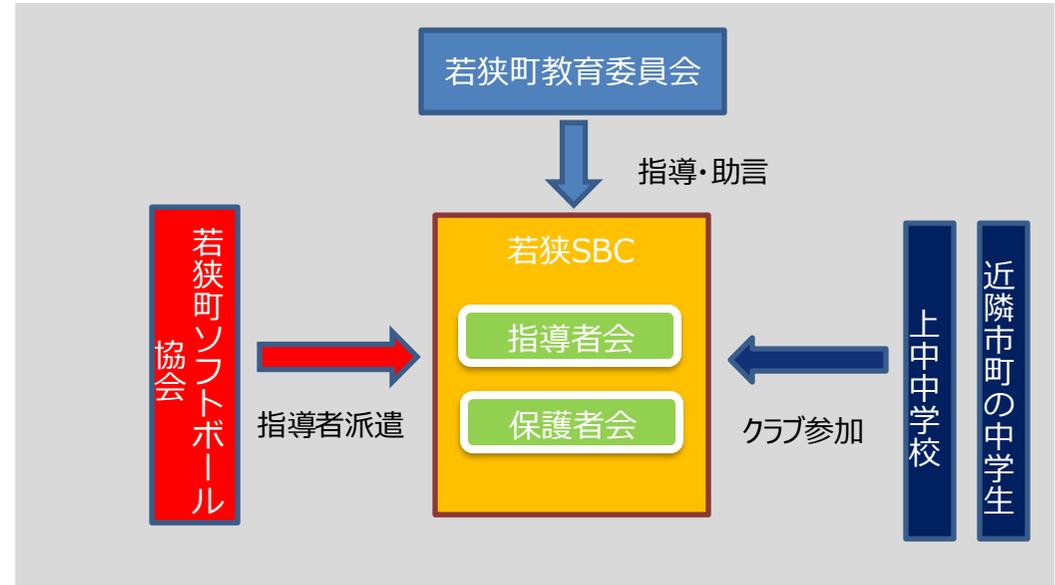
2.実証内容と成果

主な取組例

●若狭SBC 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール
運営団体名	若狭SBC
期間と日数	7月1日～1月31日 平日1回/週 休日1回/週
指導者の主な属性	地域住民
活動場所	上中中学校
主な移動手段	保護者による送迎 練習場所に応じて自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 代表：1名
役割：地域からの協賛活動や団体の総括を行う
- 運営指導者・事務：4名
役割：指導者や事務作業などを実施

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

● 取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体と若狭町との連絡調整・指導助言等を行う。
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

- 統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 野球部の受け皿として、新たにFACTベースボールの設立を行うことができ、保護者説明会に総括コーディネーターが参加することで、円滑に移行することができた。
- 部活動として練習や公式大会に出場することがなく、休日の部活動として活動することがないため、教員が休日出勤することが無くなり、業務軽減につながった。



全保護者への配布案内チラシ

統括コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・町内の全小中学生の保護者に対するチラシの作成
- ・令和6年から新規でクラブチームを立ち上げる団体に対する支援としてクラブ立ち上げ時の説明会の実施
- ・各種団体に対してのヒアリング

今後の課題と対応方針

- 部活動としての活動に対する補助はあるが、地域クラブに対する補助制度が確立していないため、補助要件の整備・基準を制定する必要がある。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

中学校、町内問わず受け入れを行うクラブチーム設立を支援。

地区大会において、同じ町内でも地区が違うため、町内で一つのクラブ化が難しいことから、同地区である隣町の美浜町にある美浜中学校と連携して、三方中学校と美浜中学校2校の野球部員が主体となったFACTベースボールクラブが設立した。

各自治体の役割

- 若狭町教育委員会
 - ・地域クラブ本拠地としての補助
 - ・総括コーディネーターの助言
 - ・中体連主催大会のバス代補助
- 美浜町教育委員会
 - ・中体連主催大会のバス代補助

移動手段

クラブに参加している生徒が、三方中10名、美浜中15名であり、どちらかの中学校については練習場所まで、保護者の送迎が必要となってしまう。

そのため、練習場所については、三方中、美浜中が均等になるよう調整を行った。

取組の成果

○若狭町に団体住所があることから、委託の実施や、総括コーディネーターの助言など行い、円滑に進めていくことができた。

また、中体連主催大会におけるバス代補助についても、両町で実施しているが、両校の生徒が所属しているクラブチームに対して取り決めがなかったことから、バス代の支払いに対して取り決めることができた。

今後の課題と対応方針

同じ若狭町内でも大会の地区が違うことから、三方中学校は美浜町、上中中学校は小浜市と連携を強化する必要があり、各市町で地域移行団体に対する考え方を整理し、補助の導入などを検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○町の体育施設関係については、他の団体の予約が埋まっており、新規のクラブチームの使用については難しいことから、学校施設の利用を前提に調整を行った。

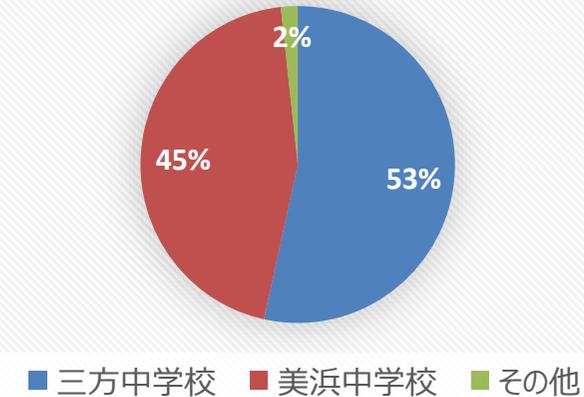
また、練習場所については、どちらかの中学校の保護者による送迎が必要になることから、できるだけ練習場所に偏りがないように、総括コーディネーターとクラブチームが練習場所の確保について中学校と協議した。

取組の成果

○運営主体と拠点中学校を訪問し、理解を高めることで、運営主体と学校の繋がりを深め、練習として58回のうち、三方中学校31回、美浜中学校で26回、その他の施設で1回と、中学校の施設を活用して練習することができた。

中学校施設の予約が、ほかの団体と被ることもあったため、交互に練習ことはできなかったが、回数の差が5回以内と偏りがないように実施することができた。

クラブチームによる練習場所の割合



今後の課題と対応方針

部活動の地域移行に伴い、部活動同様に学校施設を主として活動することが予想される。

施設の予約については、顧問の先生経由で施設の予約をとり、中学校

が鍵の貸し出しを行っている。今後、クラブチームによる中学校施設の利用が増えることで、鍵の貸し出しや予約について学校の負担とならないよう検討していく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和8年度からの休日部活動の完全地域移行に向け、総括コーディネーターを中心に町内の部活動を移行しているところである。

町としての指針を保護者に対して周知し、理解を得ることからはじまり、新たに地域クラブ化を進める実証事業、クラブ2年目に対する実証事業に取り組むこととなった。

特に当町については、地区大会がそれぞれの中学校で分かれている状態であることから、対応を模索してきたところである。

そういった経緯から、同地区である、三方中学校野球部と美浜町の美浜中学校野球部の地域移行の話があがり、運営団体、中学校、総括コーディネーター、教育委員会と協議を重ねることで、地域クラブの設立を後押しすることができた。

広域的な課題としては、両中学校が離れていることから、練習場所確保や送迎の課題があったが、片方の中学校保護者の送迎が偏らないように対応し、一定の理解を得た。

●成果の評価

○関係団体、保護者への理解

・当町の地域移行について**チラシの配布や説明会を実施**することで、進め方や受け入れ団体の紹介を実施。

○隣町と連携した新たな地域クラブ

・**三方中学校と美浜中学校の野球部における地域クラブ化。**

○2年目の持続的なクラブの運営

・クラブ2年目の若狭SBCに対する支援

ソフトボールを行いたい上中中学校生徒以外の生徒の受け入れを実施

→ソフトボールを行いたい近隣市町の生徒の加入

●今後に向けて

生徒数が減少していくなかで、地域クラブを維持していくことは難しく、中学校区や市町を超えた連携が必要になってくる。

今回のFACTベースボールクラブについては、三方中学校・美浜中学校の生徒の受け入れを行っており、地域クラブの一つのモデルとなった。

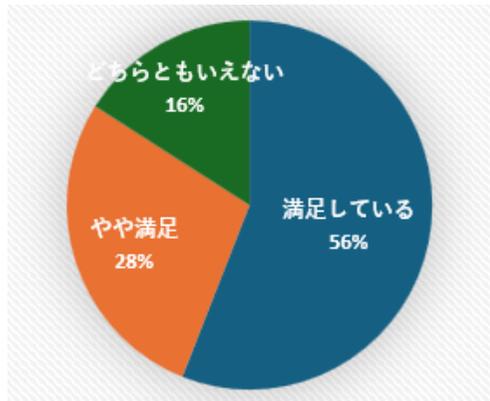
また、部活動ではないことから、練習場所の確保のため、施設の予約や鍵の受け渡しの対応が学校の負担になっている状況であり、今後、社会体育施設と連携した予約管理や施設利用について協議を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

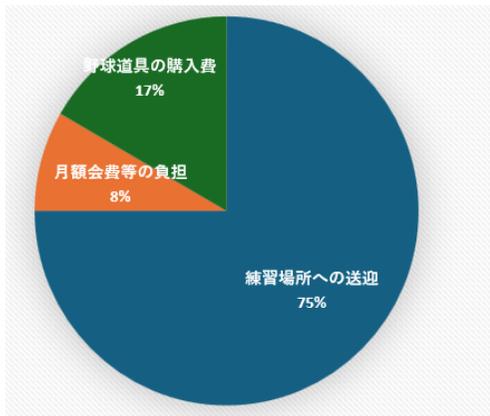
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

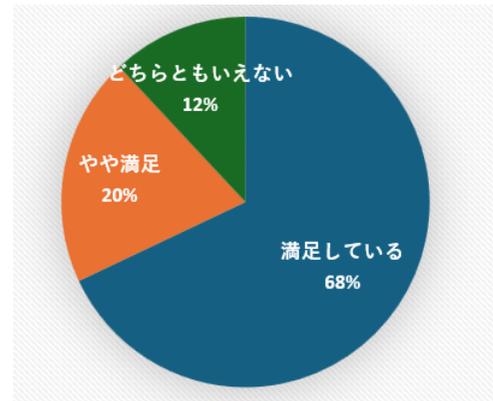
Q.クラブ化に伴いどのくらい満足していますか（保護者）



Qクラブ活動として一番負担と感じていることはなんですか（保護者）



Q.クラブ化に伴いどのくらい満足していますか（生徒）



25名に対してアンケートを実施。

○クラブ化に満足している、やや満足している項目については、保護者・生徒とも8割を超える結果となった。

○クラブ活動として一番負担と感じてるものとして、練習場所への送迎が7割を超える結果となった。

●参加者の声

中学2年生

たくさんチームメイトがいるので、練習の幅が広がって楽しい。

みんな仲が良い。

保護者

クラブ化ということで最初は不安に感じていたが、指導者の方々が熱心に指導してくださったり、何度も説明会を開催してくれたことで、不安なく、子どもも楽しそうにしているので応援したい。

指導者

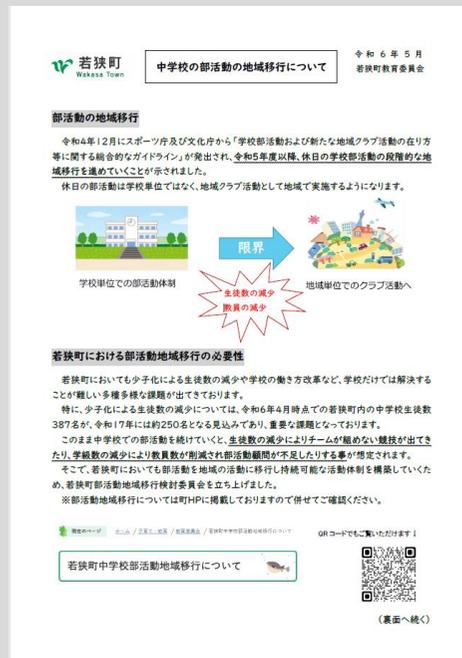
野球ができる環境を整えたいという思いから始めたことで、大変であるが非常にやりがいと子どもたちの成長を感じることができる。

地区大会の優勝など実績も出てきており、これからも継続して指導していきたい。

広報資料

若狭町からののお知らせとして、全小中学生の保護者に対して、「中学校の部活動の地域移行について」のチラシを配布し、若狭町としての方向性を示すとともに、地域移行についてまずは知ってもらうこととした。

また、総括コーディネーターと担当者が、令和7年度の新1年生の保護者説明会において地域移行の説明を行ったり、在校生に対して、地域移行の現状と受け入れ可能なクラブについての説明を行ったりした。



中学校の部活動の地域移行について

令和6年5月 若狭町教育委員会

部活動の地域移行

令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から「学校部活動および新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が発表され、令和5年度以降、休日の学校部活動の段階的な地域移行を進めていくことが示されました。

休日の部活動は学校単位ではなく、地域クラブ活動として地域で実施するようになります。

学校単位での部活動体制 → **限界** → 地域単位でのクラブ活動へ

生徒数の減少
教員の減少

若狭町における部活動地域移行の必要性

若狭町においても少子化による生徒数の減少や学校の働き方改革など、学校だけでは解決することが難しい多種多様な課題が出てきております。

特に、少子化による生徒数の減少については、令和6年4月時点での若狭町内の中学校生徒数387名が、令和17年には約250名となる見込みであり、重要な課題となっております。

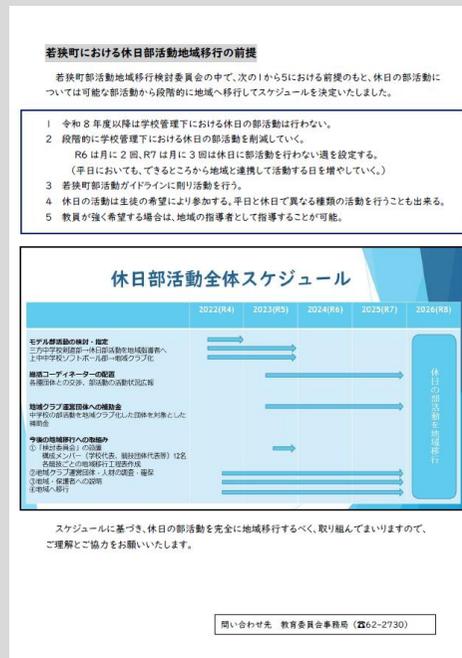
このまま中学校での部活動を続けていくと、**生徒数の減少によりチームが組めない競技が出てきたり、学級数の減少により教員数が削減され部活動顧問が不足したりする事が想定されます。**

そこで、若狭町においても部活動を地域の活動に移行し得る可能な活動体制を構築していくため、若狭町部活動地域移行検討委員会を立ち上げました。

※部活動地域移行については町HPに掲載しておりますので併せてご確認ください。

若狭町中学校部活動地域移行について

お問い合わせ先 教育委員会事務局 (2262-2730)



若狭町における「休日部活動の地域移行」の進捗状況について

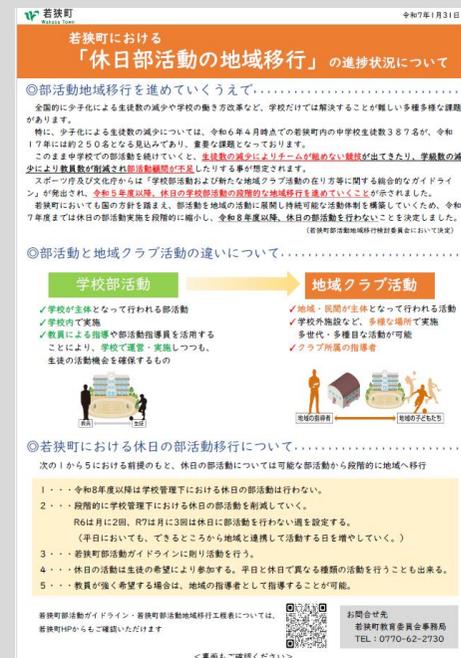
若狭町部活動地域移行検討委員会にて、次の1から5における前提のもと、休日の部活動については可能な部活動から段階的に地域へ移行してスケジュールを決定いたしました。

- 令和8年度以降は学校管理下における休日の部活動は行わない。
- 段階的に学校管理下における休日の部活動を削減していく。
R6は月に2回、R7は月に3回は休日に部活動を行わない週を設定する。
(平日においても、できるところから地域と連携して活動する日を増やしていく。)
- 若狭町部活動ガイドラインに則り活動を行う。
- 休日の活動は生徒の希望により参加する。平日と休日と異なる種類の活動を行うことも出来る。
- 教員が強く希望する場合は、地域の指導者として指導することが可能。

休日部活動全体スケジュール

	2022(R6)	2023(R6)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)
男子バレーボールの維持・拡大 三方中学校部活動一本化(部活動地域移行)地域移行 上中学校ソフトボール部一部地域クラブ化 長期滞在の交流、部活動の連携促進	→	→	→	→	→
総括コーディネーターの確保 協賛クラブ運営支援への動向 協賛クラブの運営支援(協賛クラブの立ち上げ)と連携した体制構築	→	→	→	→	→
学校部活動への移行 ① 地域・民間(法人)との連携 協賛クラブ(学校長、顧問(地域代表))は名 義顧問として指導する ② 協賛クラブ運営支援(人材の確保、施設 の確保、指導者の確保) ③ 地域へ移行	→	→	→	→	→

スケジュールに基づき、休日の部活動を完全に地域に移すべく、取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



受け入れ可能な地域クラブについて

現在、若狭町内において受け入れ可能なクラブが8団体あり、中学校区間値なく受け入れを行っています。

令和7年1月時点の地域クラブについて

スポーツ文化活動	団体名	主な活動場所	活動開始時期
1 ソフトボール	若狭SBC	上中学校グラウンド	令和5年度～
2 剣道	福井三方道場(スポタ)	三方体育館武道場	令和6年度～
3 野球	FACTベースボールクラブ	三方中学校 美浜中学校グラウンド	令和6年度～
4 野球	上中クラブ	上中学校グラウンド	令和6年度～
5 女子バレーボール	上中バレーボールスポーツ少年団	上中体育館	令和6年度～
6 卓球	上中J卓球クラブ	上中体育館	令和6年度～
7 陸上競技	MIKATA AC	三方中学校グラウンド	令和6年度～
8 柔道	若狭柔道クラブ	上中学校武道館 小浜市武道場	令和7年度～

※軟式野球と男子バレーボール、三方地域の女子バレーボールについては、地域移行に向けて協議を進めております。三方中学校の文化科学部については、休日の部活動は行っていません。

令和8年度からの休日の活動について

- 平日は部活動で活動し、休日は地域クラブで活動
 - 例) 平日は野球部で活動し、休日の練習試合や練習も野球の地域クラブに加入して活動
- 平日は部活動で活動し、休日は地域クラブで活動しない
 - 例) 平日は野球部で活動し、地域クラブに加入しないため、休日の練習や練習試合を行わない
- 中学校で様々な活動がしたい (平日と休日と異なる活動)
 - 例) 平日は陸上部として活動し、休日は教員室にある水泳クラブで活動

若狭町外の地域クラブについて

近隣の市町でも地域クラブが進んでおり、市町間わずらわしく参加することができるクラブもあります。近隣の地域クラブにつきましては、各市町にお問合せください。

福井県HPに地域移行の情報もごさいますので、二次元コードを読み取っていただきご確認ください。各市町の担当窓口も記載されております。

【若狭町から児童生徒・保護者へ配布したチラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【中学校2校によるクラブ体験会】



【クラブチームとして初めて大会に出場】



【グラウンドでの練習】



学校体育館における練習

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

中学校、競技団体・協会、町教委、総括コーディネーター、地域クラブ団体

●経過

令和4年度

上中中学校ソフトボール部の部員数の減少が見込まれ、単独チームでの試合出場が困難になる可能性があったため、地域クラブとすることでクラブ員を増加するべく、若狭町のモデルクラブに指定。

令和5年度

若狭町部活動地域移行検討委員会を設立し、地域移行の工程表を作成。

令和6年度のモデルクラブを指定。

令和6年度

FACTベースボールクラブ立ち上げにおけるクラブ代表者との意見交換会の実施や保護者説明会の実施。

夏季中体連地区大会終了後、FACTベースボールクラブへ移行。

●実施にあたって生じた課題

施設を利用する際の予約、大会バス補助における市町間での調整。

●実施内容、工夫した点等

夏季大会終了後、新チームの体制と合わせてクラブ化を実施。クラブの両中学校生徒の割合が6：4とそれぞれの中学校の生徒が在籍することから、保護者による送迎負担が均等になるように練習場所を設定した。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
●モデル部活動の検討・指定 <ul style="list-style-type: none"> 三方中学校剣道部→休日部活動を地域指導者へ 上中中学校ソフトボール部→地域クラブ化 三方中学校野球部の地域クラブ化 上記以外の両中学校における部活動の地域クラブ化 					休日の部活動を地域移行
●総括コーディネーターの配置 <ul style="list-style-type: none"> 各種団体との交渉、モデル部活動の活動状況広報 					
●地域クラブ運営団体への補助金 <ul style="list-style-type: none"> 地域クラブ化した団体を対象とした補助 					
●地域移行への取組み <ul style="list-style-type: none"> ①検討委員会の設置 ②検討委員会による工程表作成、見直し ③地域クラブ運営団体・人材の調査・確保 ④地域・保護者への説明 					